

**広島市男女共同参画に関するアンケート調査
報 告 書
(概 要 版)**

**令 和 2 年 3 月
広 島 市**

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の方法	1
3	回収状況	1
4	調査結果の見方	1
5	回答者の属性	2
II	調査結果	7
1	男女平等意識について	7
1-1	各分野での男女の地位の平等	7
2	仕事と家庭等の両立について	11
2-1	仕事と生活との望ましいバランス	11
2-2	自分自身の現状	12
2-3	家庭における役割分担	13
2-4	1日の生活時間	15
2-5	男性の育児や介護などに関する制度の利用が少ない理由	16
2-6	男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと	17
3	就労について	18
3-1	仕事と仕事以外の生活の両立における不安や悩み	18
3-2	女性が働くことに関する考え方	19
3-3	女性の就労継続、再就職に必要なこと	20
3-4	職場における女性活躍への取組	21
3-5	管理職への昇格希望	22
4	地域での男女共同参画について	24
4-1	地域活動での男女共同参画	24
4-2	地域活動における方針決定の場に女性が参画するために効果的なこと	25

5	男女間における暴力の防止・被害者支援について.....	26
5-1	配偶者、交際相手などに対しての暴力経験の有無.....	26
5-2	配偶者、交際相手などからの暴力経験の有無.....	28
5-3	配偶者から受けた暴力に対する相談先.....	30
6	男女共同参画社会の形成について.....	31
6-1	男女共同参画に関する言葉の認知度.....	31
6-2	男女共同参画社会実現のために広島市に期待すること.....	33

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、男女共同参画に関する意識や実態について調査し、今後の施策を検討するための基礎資料を得ることを目的として実施した。

2 調査の方法

(1) 調査地域

広島市全域

(2) 調査対象者及び標本抽出方法

市内に居住する 18 歳以上の者を対象として、住民記録システムのデータから 3,000 人を無作為抽出法により抽出した。

(3) 調査方法

郵送配布・郵送回収・無記名方式

(4) 調査期間

令和元年 12 月 5 日（木）から令和元年 12 月 20 日（金）まで

3 回収状況

(1) 調査票配布数 3,000 票

(2) 有効回収数 897 票 有効回収率 29.9%

4 調査結果の見方

(1) 本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比（％）で示してある。これらの数値は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が 100.0% とならない場合がある。

(2) 複数の回答を求めた質問では、回答比率の合計が 100.0% を超えることがある。

(3) 報告書中の図表では、コンピューター入力の都合上、回答選択肢の表現を短縮している場合がある。

(4) 選択肢の中から回答可能数（「○印は 1 つ」等）を超えている場合は、「無回答」として集計した。

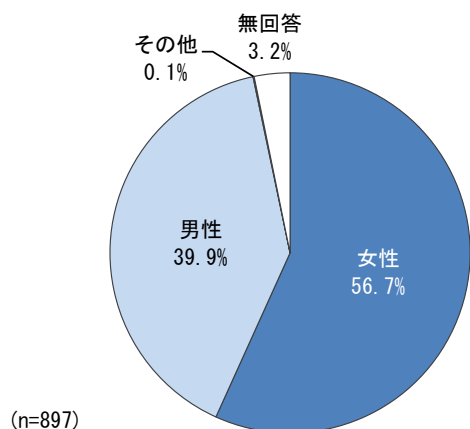
(5) 回答者数 20 人以下のものについては、比率が動きやすく分析に適さないため、参考として示すにとどめる。

(6) 今回調査から対象年齢を 18 歳以上とした。

(7) 今回調査から性別の選択肢に「その他」を用意したが、回答者が 1 人と少なく、性別による集計や分析の際には、その回答について掲載を行っていない。

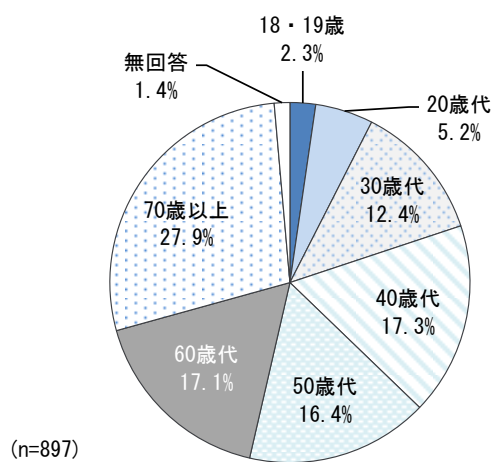
5 回答者の属性

(1) 性別



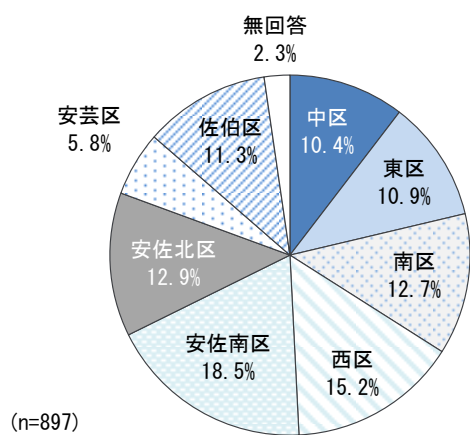
	人数	(%)
女性	509	56.7
男性	358	39.9
その他	1	0.1
無回答	29	3.2
合 計	897	100.0

(2) 年代



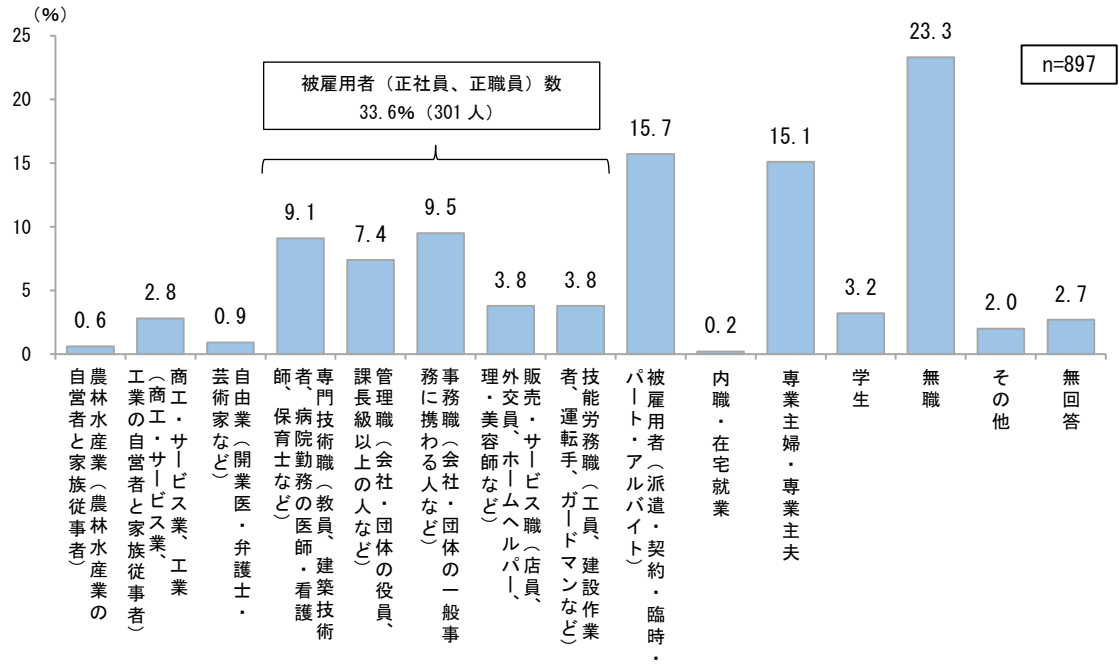
	全体		女性		男性	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
18・19歳	21	2.3	14	2.8	7	2.0
20歳代	47	5.2	24	4.7	22	6.1
30歳代	111	12.4	70	13.8	41	11.5
40歳代	155	17.3	87	17.1	67	18.7
50歳代	147	16.4	89	17.5	58	16.2
60歳代	153	17.1	86	16.9	63	17.6
70歳以上	250	27.9	138	27.1	100	27.9
無回答	13	1.4	1	0.2	-	-
合 計	897	100.0	509	100.0	358	100.0

(3) 居住区



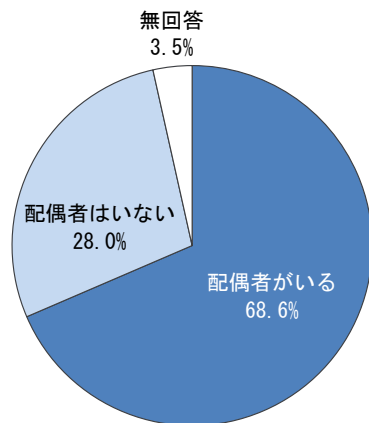
	全体		女性		男性	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
中区	93	10.4	61	12.0	31	8.7
東区	98	10.9	55	10.8	42	11.7
南区	114	12.7	72	14.1	38	10.6
西区	136	15.2	61	12.0	71	19.8
安佐南区	166	18.5	91	17.9	71	19.8
安佐北区	116	12.9	72	14.1	44	12.3
安芸区	52	5.8	34	6.7	18	5.0
佐伯区	101	11.3	60	11.8	37	10.3
無回答	21	2.3	3	0.6	6	1.7
合 計	897	100.0	509	100.0	358	100.0

(4) 職業



		合計	農林水産業 （農林水産業者と家族従事者）	商工・サービス業、工業の自 営者と家族従事者	自由業（開業医・弁護士・ 芸術家など）	被雇用者（正社員、正職員） 合計	被雇用者（正社員、正職員）					被雇用者（派遣・契約・臨時・ パート・アルバイト）	内職・在宅就業	専業主婦・専業主夫	学生	無職	その他	無回答
							専任技術職（教員、建築技術 者、病院勤務の医師・看護 師、保育士など）	管理職（会社・団体の役員、 課長級以上の人など）	一般事務（会社・団体の 一般事務に携わる人など）	販売・サービス職（店員、 外交員、ホームヘルパー、 理・美容師など）	技能労務職（工員、建設作業 者、運転手、ガードマンな ど）							
全体	人数	897	5	25	8	301	82	66	85	34	34	141	2	135	29	209	18	24
	(%)	100.0	0.6	2.8	0.9	33.6	9.1	7.4	9.5	3.8	3.8	15.7	0.2	15.1	3.2	23.3	2.0	2.7
女性	人数	509	2	8	3	132	50	13	51	18	—	110	2	133	18	86	7	8
	(%)	100.0	0.4	1.6	0.6	25.9	9.8	2.6	10.0	3.5	—	21.6	0.4	26.1	3.5	16.9	1.4	1.6
男性	人数	358	3	16	5	166	31	53	33	16	33	29	—	1	10	114	10	4
	(%)	100.0	0.8	4.5	1.4	46.4	8.7	14.8	9.2	4.5	9.2	8.1	—	0.3	2.8	31.8	2.8	1.1

(5) 配偶者の有無

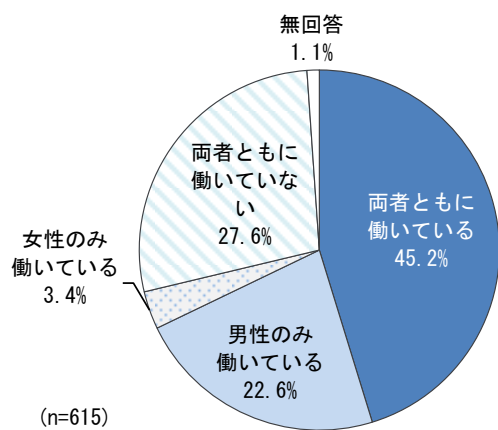


(n=897)

	全体		女性		男性	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
配偶者がいる	615	68.6	332	65.2	271	75.7
配偶者がいない	251	28.0	162	31.8	84	23.5
無回答	31	3.5	15	2.9	3	0.8
合 計	897	100.0	509	100.0	358	100.0

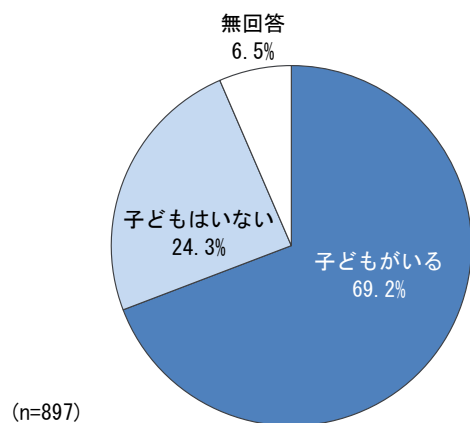
	女性								男性							
	18・19歳		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		18・19歳	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
配偶者がいる	1	7.1	6	25.0	49	70.0	62	71.3	63	70.8	64	74.4	87	63.0	-	-
配偶者がいない	13	92.9	18	75.0	18	25.7	25	28.7	24	27.0	20	23.3	43	31.2	7	100.0
無回答	-	-	-	-	3	4.3	-	-	2	2.2	2	2.3	8	5.8	-	-
合 計	14	100.0	24	100.0	70	100.0	87	100.0	89	100.0	86	100.0	138	100.0	7	100.0

(5) - 2 就労状況（配偶者がいる方のみ回答）



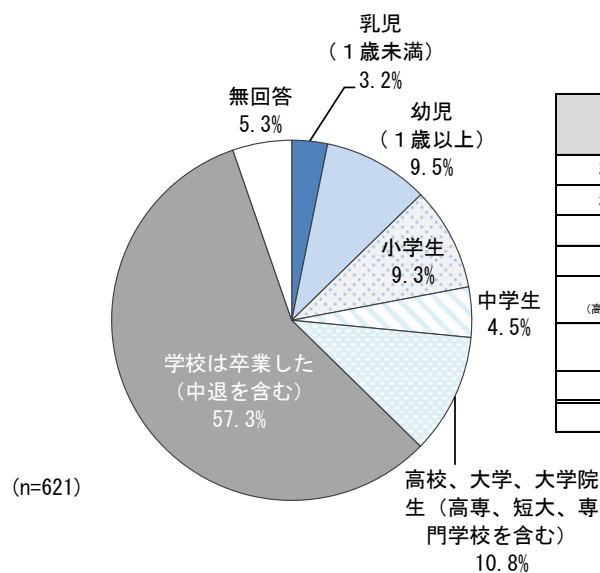
	全体		女性		男性	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
両者ともに働いている	278	45.2	161	48.5	113	41.7
男性のみ働いている	139	22.6	71	21.4	67	24.7
女性のみ働いている	21	3.4	9	2.7	11	4.1
両者ともに働いていない	170	27.6	86	25.9	78	28.8
無回答	7	1.1	5	1.5	2	0.7
合 計	615	100.0	332	100.0	271	100.0

(6) 子どもの有無



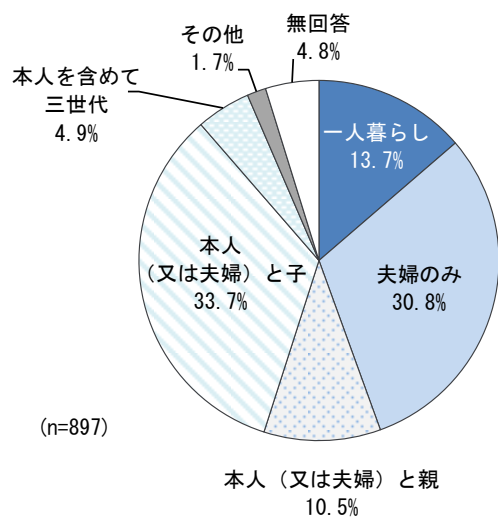
	全体		女性		男性	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
子どもがいる	621	69.2	362	71.1	245	68.4
子どもはいない	218	24.3	115	22.6	100	27.9
無回答	58	6.5	32	6.3	13	3.6
合 計	897	100.0	509	100.0	358	100.0

(6) - 2 一番下の子どもの状況（子どもがいる方のみ回答）



	全体		女性		男性	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
乳児（1歳未満）	20	3.2	13	3.6	7	2.9
幼児（1歳以上）	59	9.5	33	9.1	26	10.6
小学生	58	9.3	36	9.9	21	8.6
中学生	28	4.5	16	4.4	12	4.9
高校、大学、大学院生（高専、短大、専門学校を含む）	67	10.8	40	11.0	26	10.6
学校は卒業した（中退を含む）	356	57.3	197	54.4	148	60.4
無回答	33	5.3	27	7.5	5	2.0
合 計	621	100.0	362	100.0	245	100.0

(7) 家族構成



	全体		女性		男性	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
一人暮らし	123	13.7	76	14.9	42	11.7
夫婦のみ	276	30.8	159	31.2	112	31.3
本人(又は夫婦)と親	94	10.5	52	10.2	42	11.7
本人(又は夫婦)と子	302	33.7	165	32.4	131	36.6
本人を含めて三世代	44	4.9	27	5.3	17	4.7
その他	15	1.7	9	1.8	6	1.7
無回答	43	4.8	21	4.1	8	2.2
合 計	897	100.0	509	100.0	358	100.0

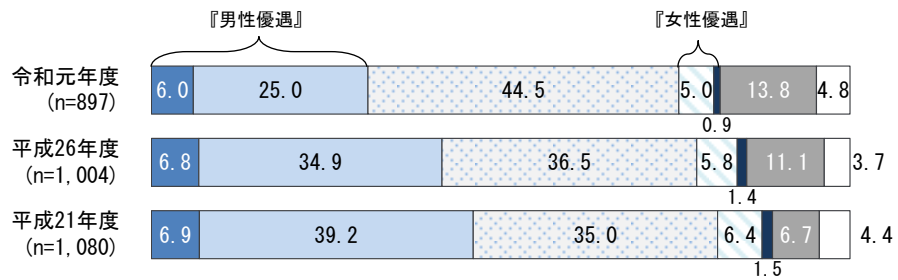
	女性														男性													
	18・19歳		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		18・19歳		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
一人暮らし	-	-	5	20.8	4	5.7	14	16.1	17	19.1	12	14.0	24	17.4	1	14.3	4	18.2	9	22.0	10	14.9	8	13.8	4	6.3	6	6.0
夫婦のみ	-	-	3	12.5	8	11.4	15	17.2	31	34.8	42	48.8	60	43.5	-	-	2	9.1	8	19.5	11	16.4	11	19.0	33	52.4	47	47.0
本人(又は夫婦)と親	10	71.4	9	37.5	10	14.3	5	5.7	13	14.6	3	3.5	2	1.4	5	71.4	13	59.1	2	4.9	5	7.5	12	20.7	4	6.3	1	1.0
本人(又は夫婦)と子	-	-	3	12.5	43	61.4	48	55.2	22	24.7	19	22.1	29	21.0	1	14.3	2	9.1	18	43.9	39	58.2	25	43.1	16	25.4	30	30.0
本人を含めて三世代	1	7.1	1	4.2	4	5.7	3	3.4	4	4.5	4	4.7	10	7.2	-	-	-	-	3	7.3	1	1.5	2	3.4	2	3.2	9	9.0
その他	-	-	3	12.5	1	1.4	-	-	-	-	1	1.2	4	2.9	-	-	1	4.5	-	-	-	-	-	-	3	4.8	2	2.0
無回答	3	21.4	-	-	-	-	2	2.3	2	2.2	5	5.8	9	6.5	-	-	-	-	1	2.4	1	1.5	-	-	1	1.6	5	5.0
合 計	14	100.0	24	100.0	70	100.0	87	100.0	89	100.0	86	100.0	138	100.0	7	100.0	22	100.0	41	100.0	67	100.0	58	100.0	63	100.0	100	100.0

Ⅱ 調査結果

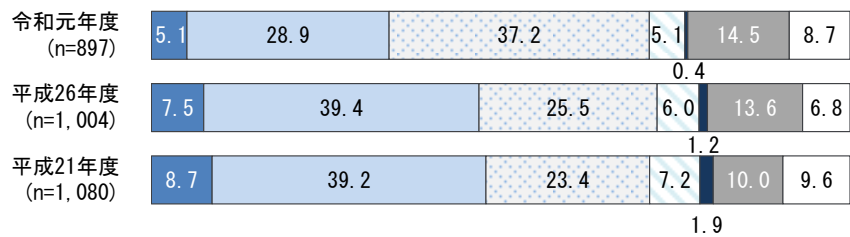
1 男女平等意識について

1-1 あなたは次のような場で、男女の地位は平等になっていると思いますか。①～⑧の各々についてお答えください。(○印はそれぞれ1つずつ)

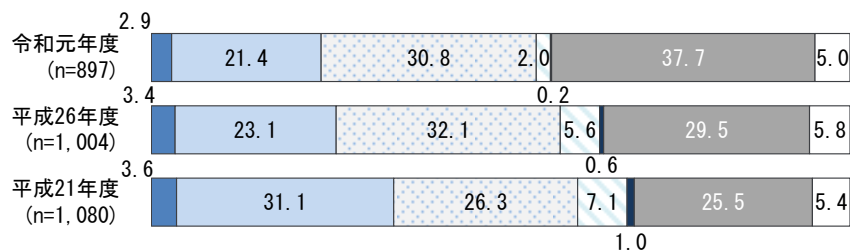
① 家庭では



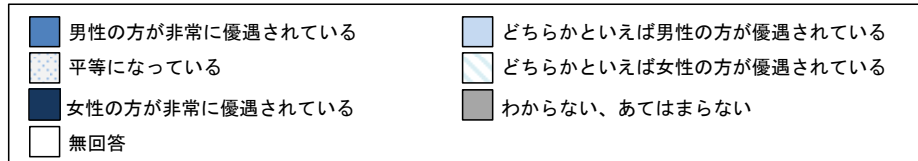
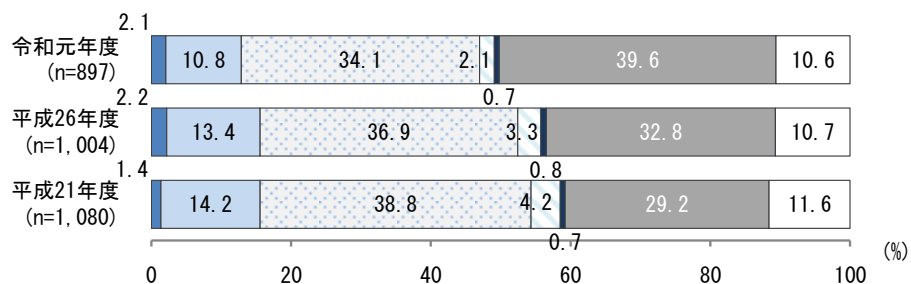
② 職場では



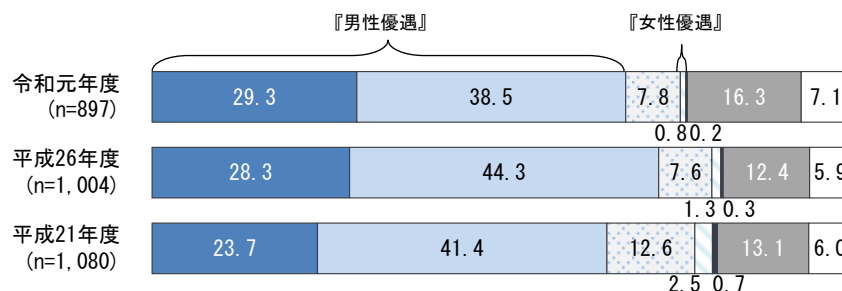
③ 地域活動では



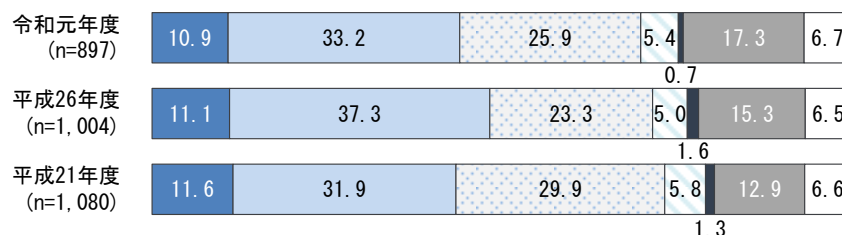
④ 学校教育の場では



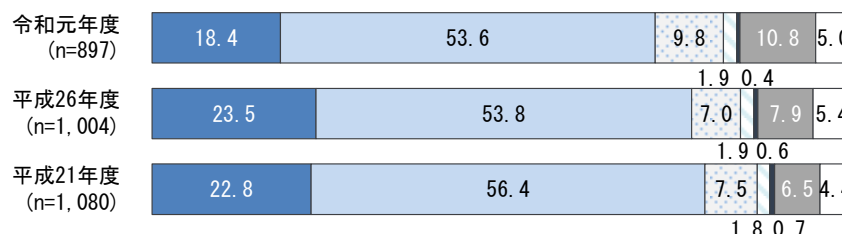
⑤ 政治の場では



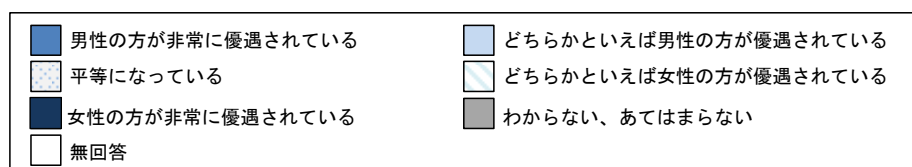
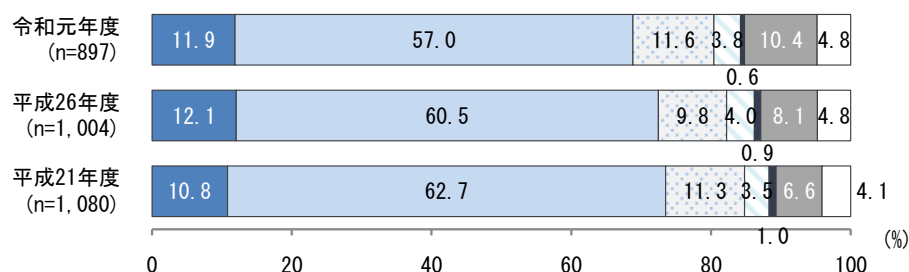
⑥ 法律や制度の上では



⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどでは



⑧ 社会全体では

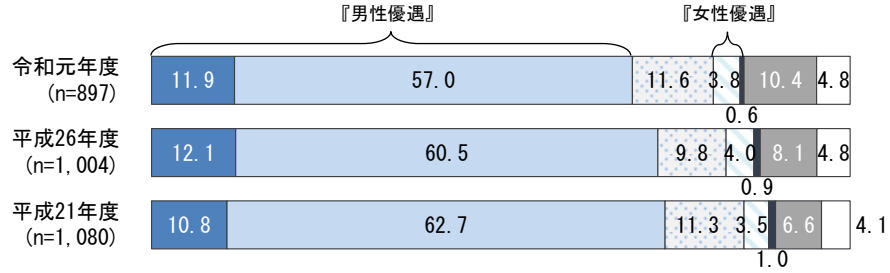


各分野での男女の地位の平等について、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合）との回答は「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」で7割前後と高くなっている。「平等」との回答は「家庭」で44.5%と高くなっている。

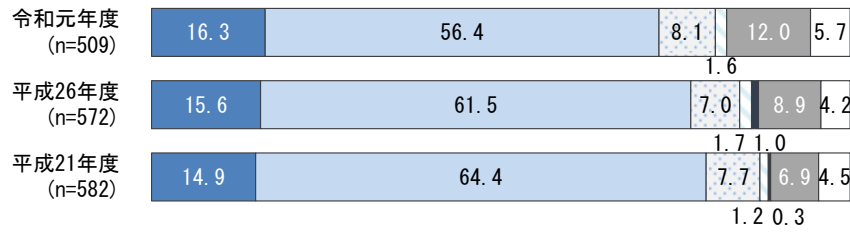
経年比較すると、『男性優遇』との回答は「家庭」、「職場」で今回調査が平成26年度調査、平成21年度調査を1割以上下回っている。また、「地域活動」、「社会通念・慣習・しきたりなど」でも低下傾向にある。

【社会全体での男女の地位の平等（性別）】

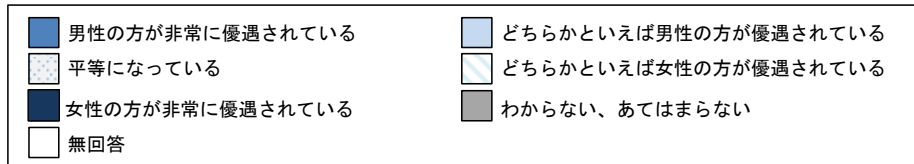
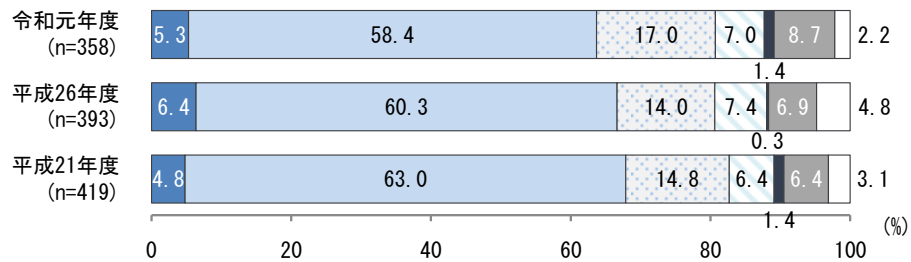
（全体）



（女性）



（男性）



社会全体での男女の地位の平等について、『男性優遇』との回答は68.9%、『女性優遇』との回答は4.4%となっている。

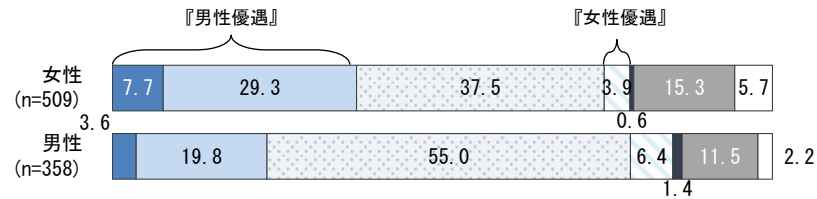
経年比較すると、『男性優遇』との回答はやや低下傾向にある。

性別にみると、『男性優遇』との回答は女性（72.7%）が男性（63.7%）を9.0ポイント上回っている。

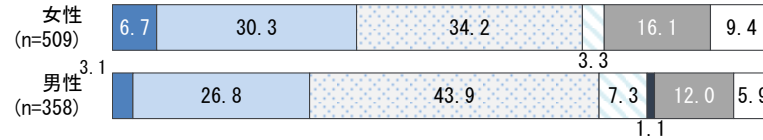
男女それぞれについて経年比較すると、男女ともに『男性優遇』との回答はやや低下傾向にある。

【各分野での男女の地位の平等（性別）】

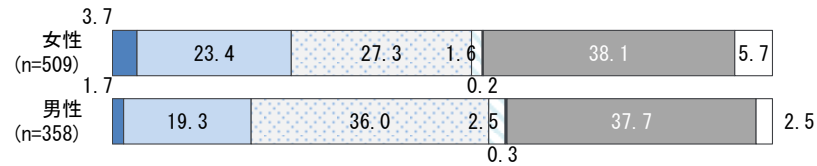
① 家庭では



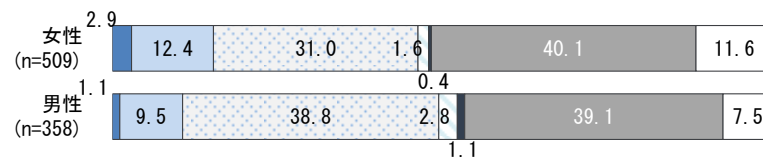
② 職場では



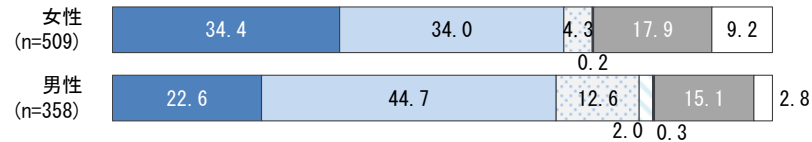
③ 地域活動では



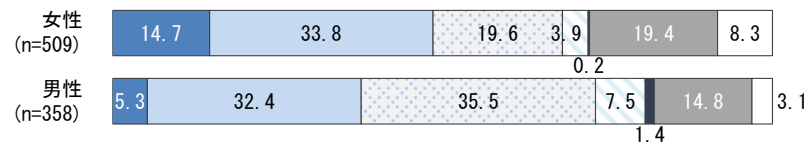
④ 学校教育の場では



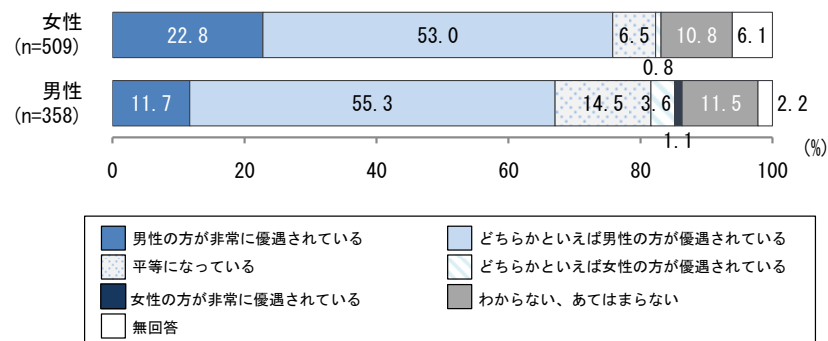
⑤ 政治の場では



⑥ 法律や制度の上では



⑦ 社会通念・慣習・しきたりなどでは

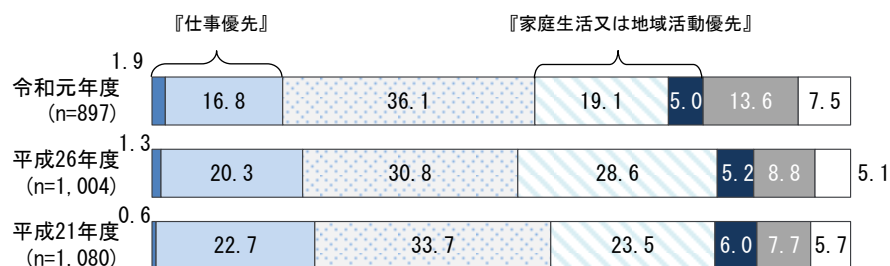


各分野での男女の地位の平等について、性別にみると、『男性優遇』との回答はすべての分野で女性が男性を上回る傾向にある。特に「家庭」で 13.6 ポイント、「法律や制度の上」で 10.8 ポイント女性が男性を上回っている。

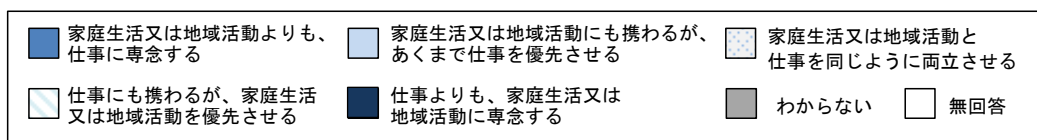
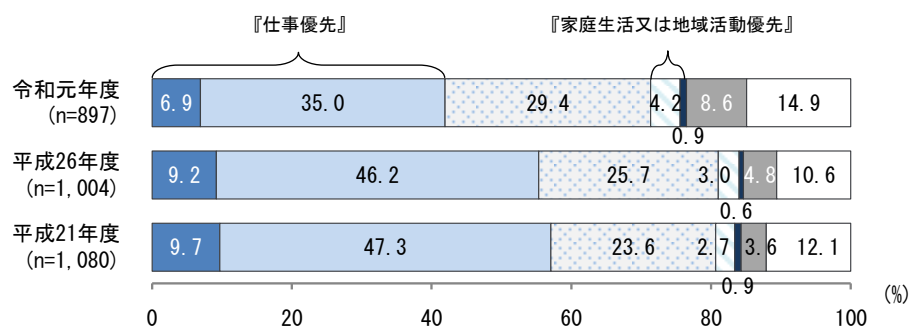
2 仕事と家庭等の両立について

2-1 仕事との関係において、家庭生活又は町内会やボランティアなどの地域活動をどのように位置づけるのが望ましいと思いますか。(1) 女性について、および(2) 男性について、それぞれお答えください。

(1) 女性について



(2) 男性について



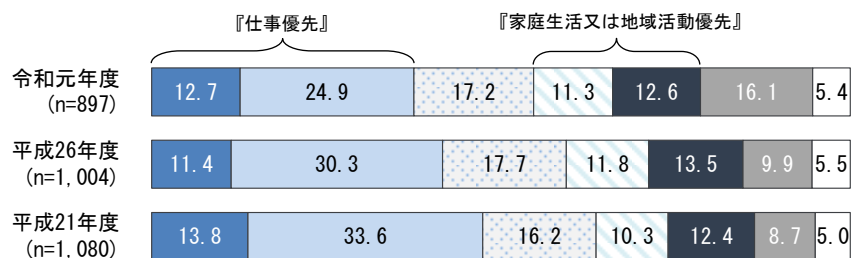
女性の仕事と生活との望ましいバランスについて、「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」との回答が36.1%と最も高く、次いで「仕事にも携わるが、家庭生活又は地域活動を優先させる」(19.1%)、「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」(16.8%)などの順となっている。

男性の仕事と生活との望ましいバランスについて、「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」との回答が35.0%と最も高く、次いで「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」(29.4%)などの順となっている。

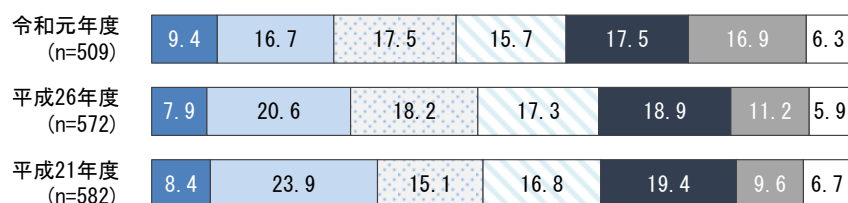
経年比較すると、女性については大きな差はみられないものの、『仕事優先』(「家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念する」と「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」を合わせた割合)との回答はやや低下傾向にある。男性についても、『仕事優先』との回答は今回調査が平成26年度調査を13.5ポイント、平成21年度調査を15.1ポイント下回っており、低下傾向にある。

2-2 それでは、ご自身の現在の状況についてはいかがですか。(○印は1つ)

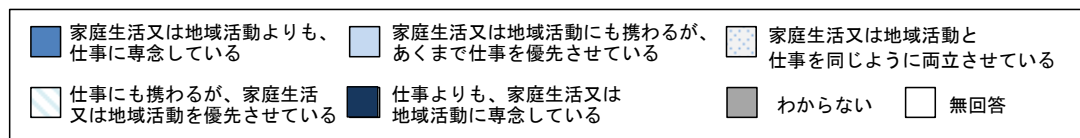
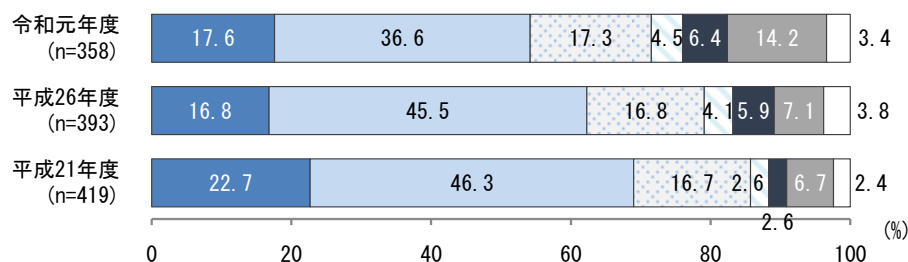
(全体)



(女性)



(男性)



自分自身の現状について、「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させている」との回答が24.9%と最も高く、次いで「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させている」(17.2%)、「家庭生活又は地域活動よりも、仕事に専念している」(12.7%)、「仕事よりも、家庭生活又は地域活動に専念している」(12.6%)などの順となっている。

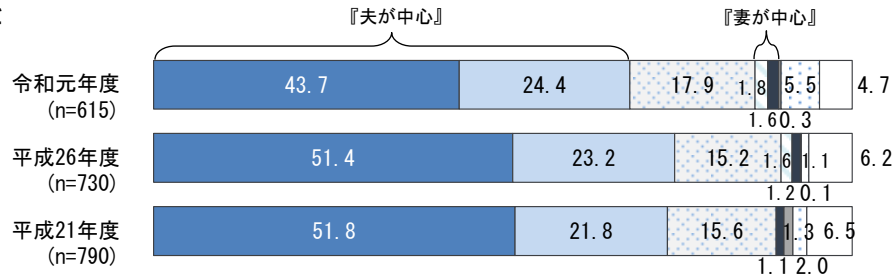
経年比較すると、『仕事優先』との回答は低下傾向にある。

男女それぞれについて経年比較すると、『仕事優先』との回答は女性では今回調査が平成26年度調査を2.4ポイント、平成21年度調査6.2ポイント、男性では今回調査が平成26年度調査を8.1ポイント、平成21年度調査14.8ポイント下回っており、いずれも低下傾向にある。

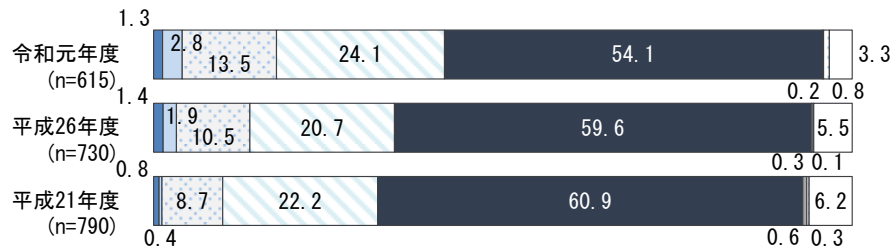
(配偶者又はパートナーと同居している方におたずねします。)

2-3 あなたの家庭において、収入を得ることや家事、子育て、介護・看護、地域活動への参加など、どちらが分担していますか。(〇印は1つつ)

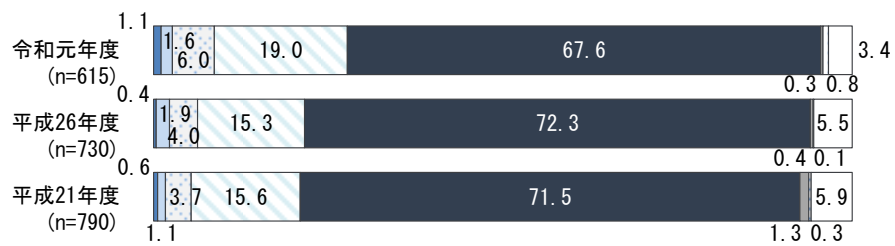
① 収入を得ること



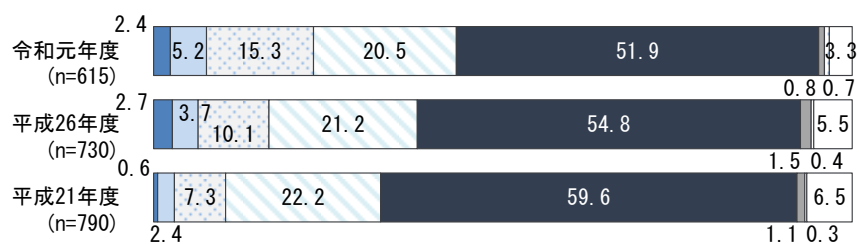
② 掃除・洗濯



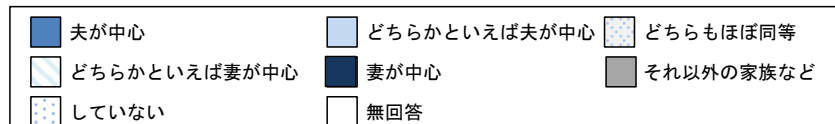
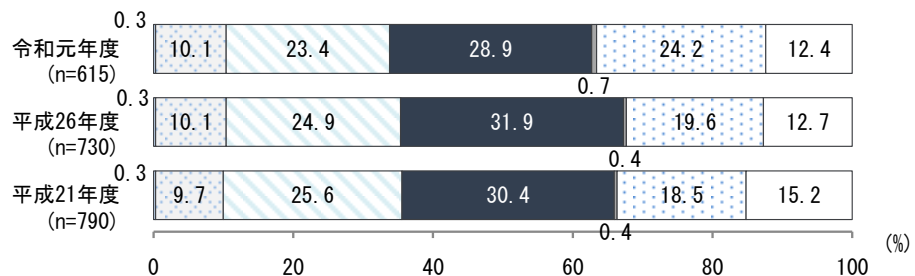
③ 食事のしたく



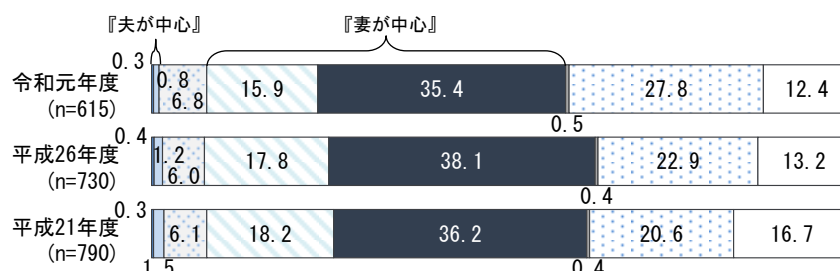
④ 食事の後片付け、食器洗い



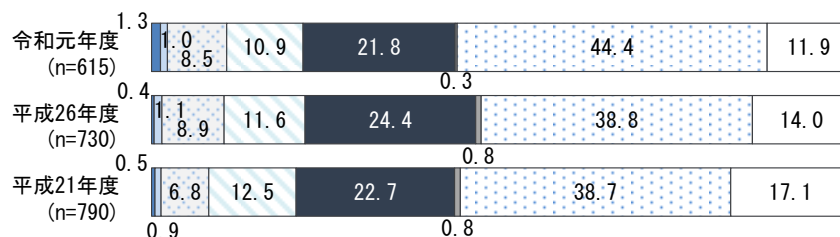
⑤ 子育て



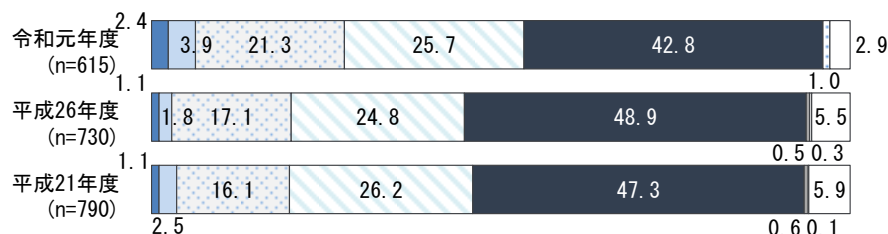
⑥ 学校などの行事への参加



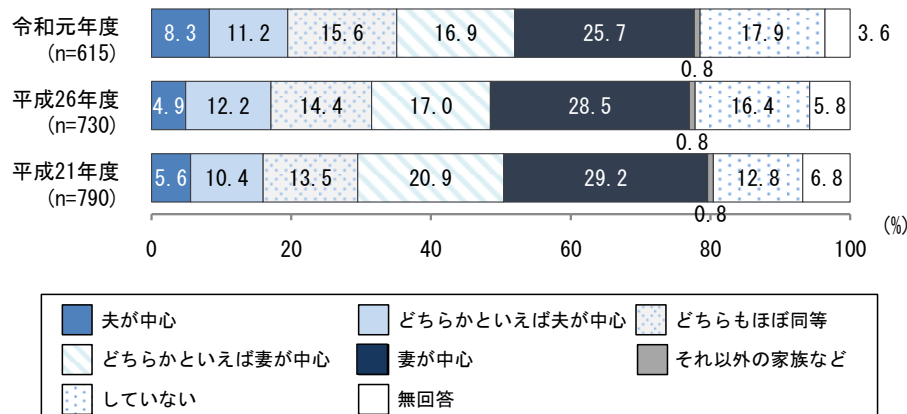
⑦ 介護・看護



⑧ 日常の買い物



⑨ 町内会など地域活動への参加

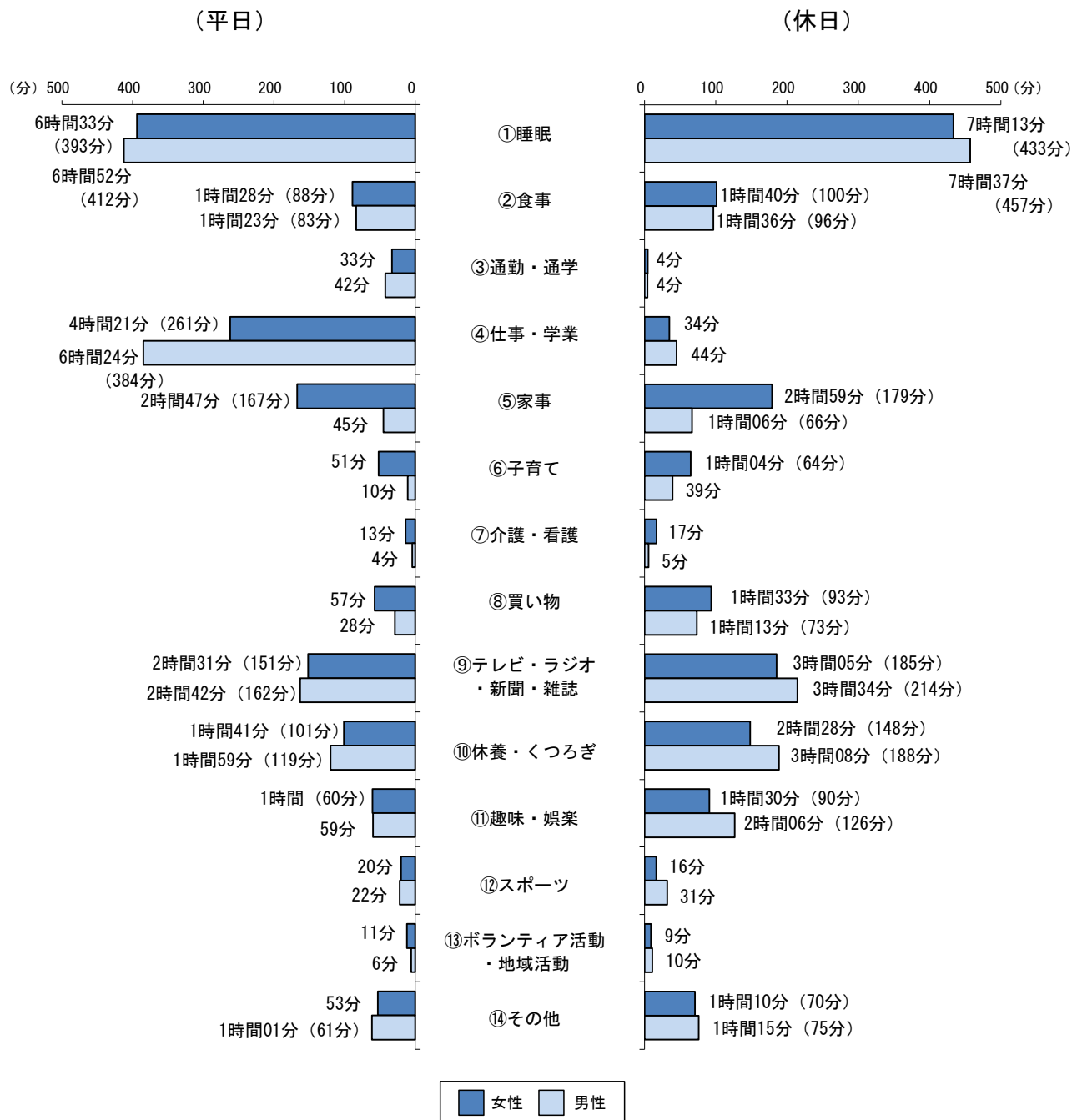


家庭における役割分担について、『夫が中心』（「夫が中心」と「どちらかといえば夫が中心」を合わせた割合）との回答が高いのは「収入を得ること」のみで、その他の項目では『妻が中心』（「妻が中心」と「どちらかといえば妻が中心」を合わせた割合）との回答が高く、「食事のしたく」との回答は86.6%と高くなっている。

経年比較すると、いずれの調査においても「収入を得ること」以外の項目で圧倒的に『妻が中心』との回答が高くなっているが、割合をみると低下傾向にある。

2-4 あなたは、平均的な1日の生活時間をどのように過ごしていますか。平日と休日の両方についてお答えください。（合計が24時間となるように、^{わくなく}枠内に「およその合計時間」を記入してください。該当がない場合は「0時間0分」と記入してください。）

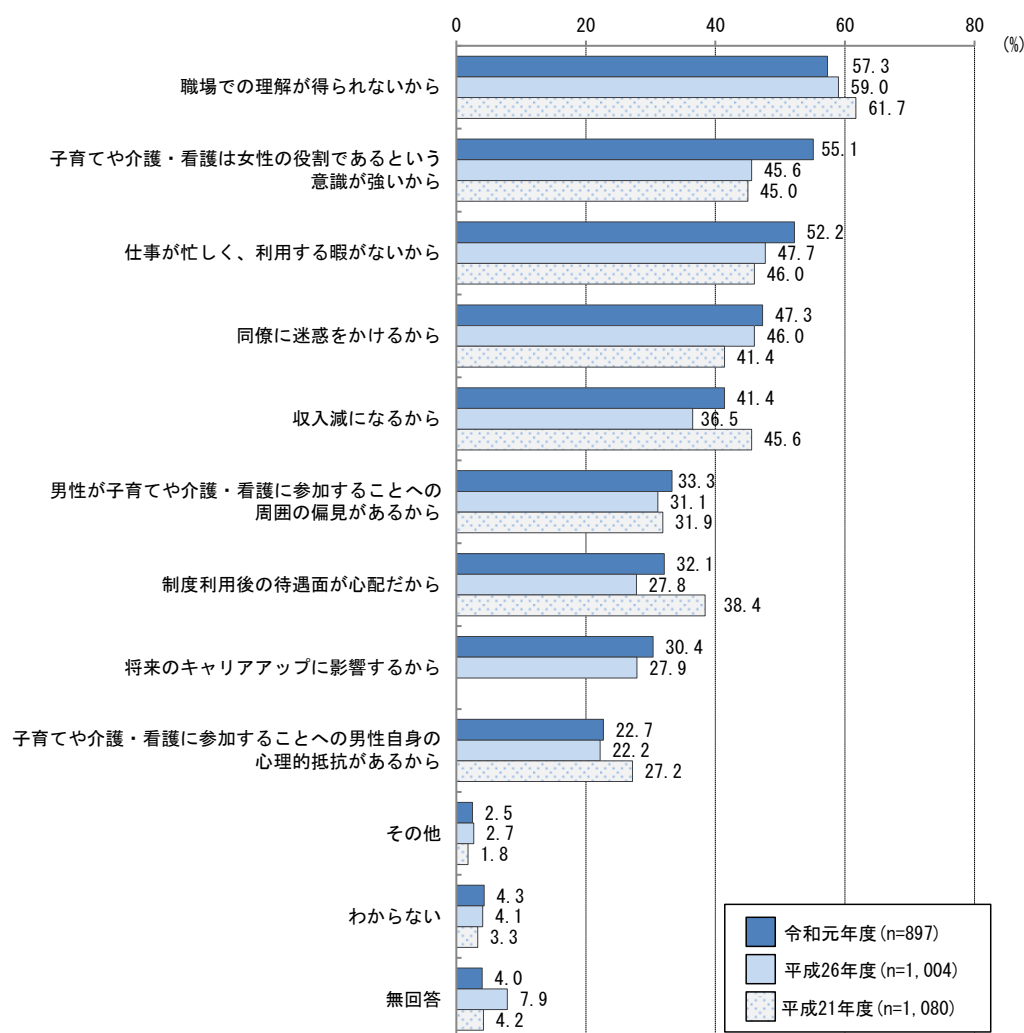
【1日の生活時間（性別）】



1日の生活時間について、「仕事・学業」では男性が女性より平日で約2時間長くなっている。一方、「家事」では女性が平日、休日ともに約3時間となっているのに対し、男性は1時間前後と短くなっている。また、「子育て」においても、女性が平日、休日ともに1時間前後であるのに対し、男性は平日で10分、休日で39分となっており、女性中心となっていることがうかがえる。

2-5 育児や介護等に関する制度（※）は、男女とも利用できるようになっていますが、男性の利用者は少ないのが現状です。その理由は何だと思いますか。（○印はいくつでも）

（※「育児や介護等に関する制度」とは、「育児休業制度」、「介護休業制度」、「子の看護休暇」、「短時間勤務制度」、「所定外労働の免除」を指します。）

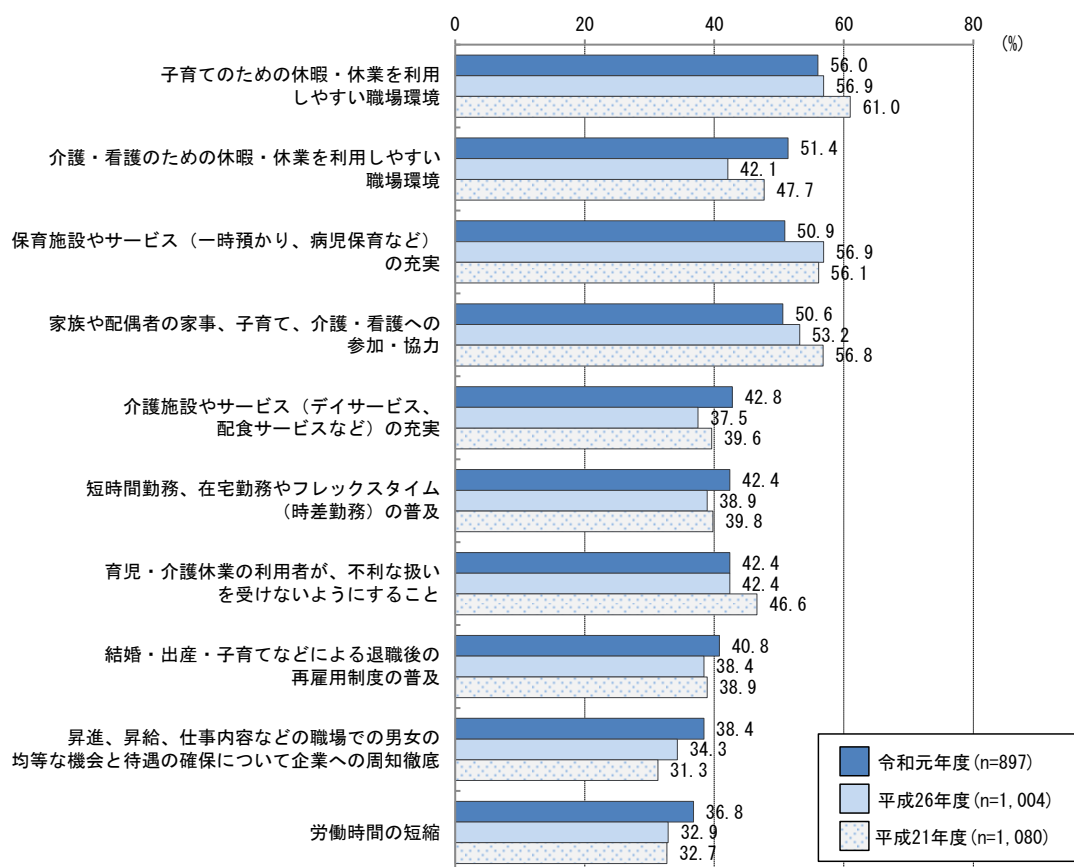


男性の育児や介護などに関する制度の利用が少ない理由について、「職場での理解が得られないから」との回答が57.3%と最も高く、次いで「子育てや介護・看護は女性の役割であるという意識が強いから」(55.1%)、「仕事が忙しく、利用する暇がないから」(52.2%)などの順となっている。

経年比較すると、いずれの調査においても「職場での理解が得られないから」との回答が最も高くなっているが、低下傾向にある。「子育てや介護・看護は女性の役割であるという意識が強いから」との回答は今回調査が平成26年度調査を9.5ポイント、平成21年度調査を10.1ポイント上回っている。

2-6 男女が共に、仕事と家庭を両立していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇印はいくつでも)

【上位 10 項目】



男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なことについて、「子育てのための休暇・休業を利用しやすい職場環境」との回答が56.0%と最も高く、次いで「介護・看護のための休暇・休業を利用しやすい職場環境」(51.4%)、「保育施設やサービス（一時預かり、病児保育など）の充実」(50.9%)、「家族や配偶者の家事、子育て、介護・看護への参加・協力」(50.6%)などの順となっている。

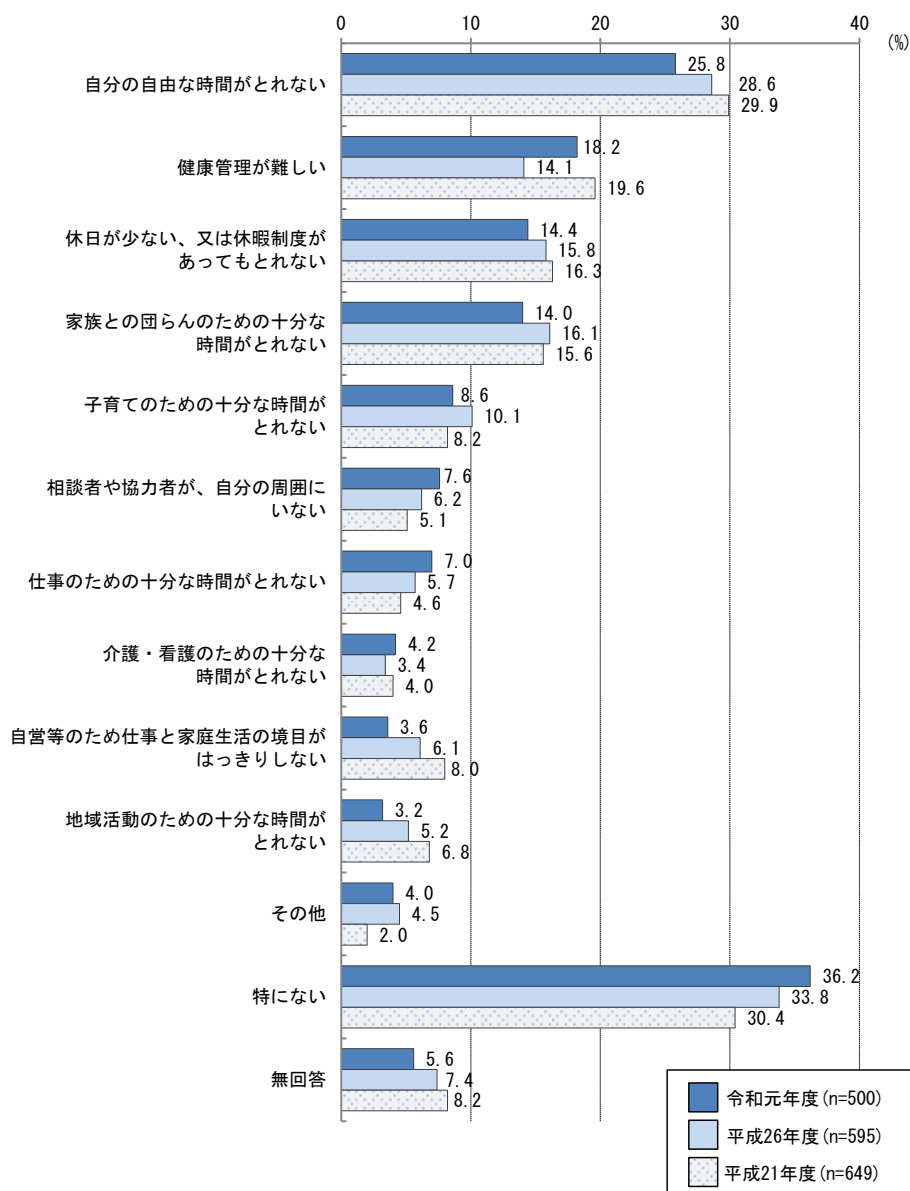
経年比較すると、「介護・看護のための休暇・休業を利用しやすい職場環境」との回答は今回調査が平成26年度調査を9.3ポイント、「介護施設やサービス（デイサービス、配食サービスなど）の充実」との回答は今回調査が平成26年度調査を5.3ポイント上回っている。一方、「保育施設やサービス（一時預かり、病児保育など）の充実」との回答は今回調査が平成26年度調査を6.0ポイント下回っている。

3 就労について

(現在仕事をしている方におたずねします。)

3-1 あなたは、仕事と仕事以外の生活の両立について、不安や悩みがありますか。

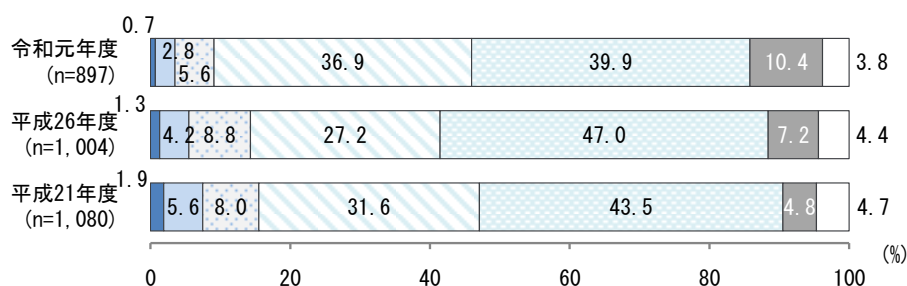
(○印はいくつでも)



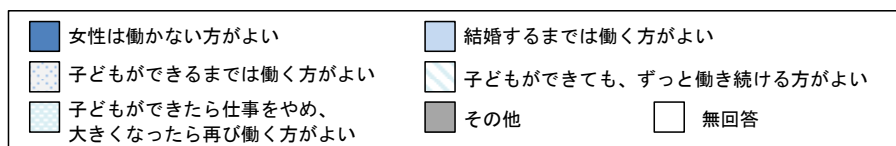
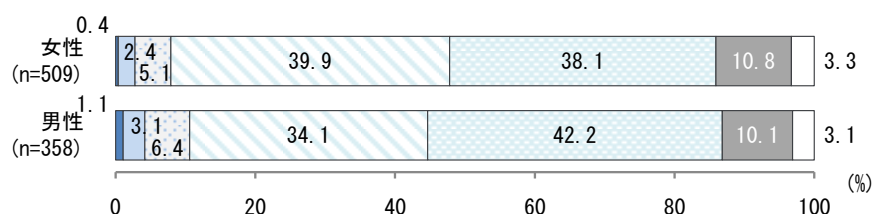
仕事と仕事以外の生活の両立における不安や悩みについて、「自分の自由な時間がとれない」との回答が25.8%と最も高く、次いで「健康管理が難しい」(18.2%)、「休日が少ない、又は休暇制度があってもとれない」(14.4%)、「家族との団らんのための十分な時間がとれない」(14.0%)などの順となっている。

経年比較すると、いずれの調査においても「自分の自由な時間がとれない」との回答が最も高いが低下傾向にあり、「特にない」との回答は上昇傾向にある。

3-2 あなたは、一般的に女性が働くことについてどのように思いますか。ご自身の考えに最も近いものをお答えください。(○印は1つ)



【女性が働くことに関する考え方（性別）】



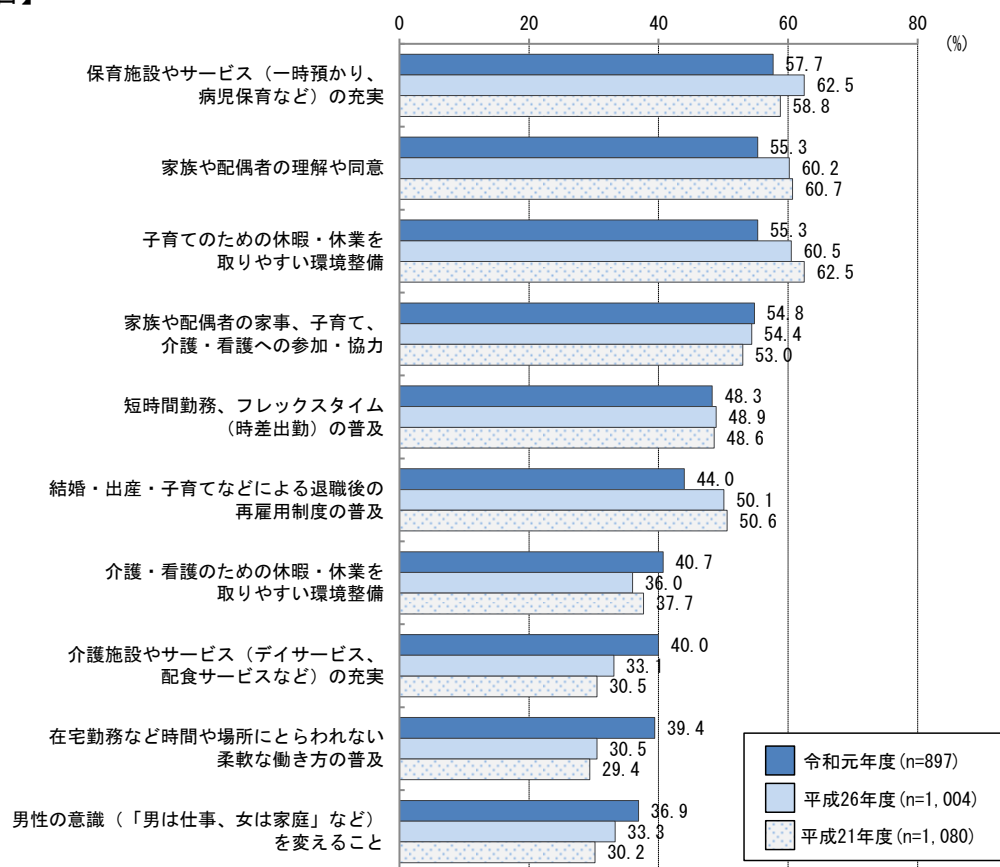
女性が働くことに関する考え方について、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」との回答が39.9%と最も高く、次いで「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」(36.9%)などの順となっている。

経年比較すると、「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」との回答は今回調査が平成26年度調査を9.7ポイント上回っている。一方、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」との回答は今回調査が平成26年度調査を7.1ポイント下回っている。

性別にみると、女性では「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」との回答(39.9%)が、男性では「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」との回答(42.2%)が最も高くなっている。

3-3 あなたは、働く意欲のある女性が働き続けたり、再就職したりするために、どのようなことが必要だと思いますか。(○印はいくつでも)

【上位 10 項目】

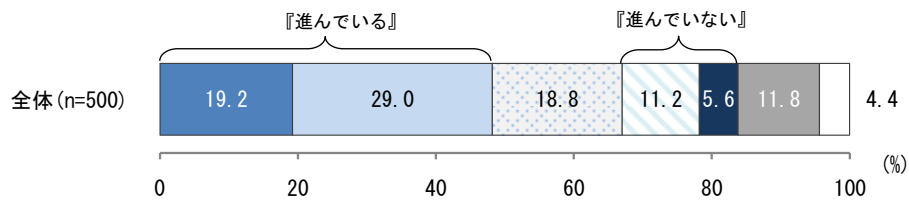


女性の就労継続、再就職に必要なことについて、「保育施設やサービス（一時預かり、病児保育など）の充実」との回答が 57.7% と最も高く、次いで「家族や配偶者の理解や同意」（55.3%）、「子育てのための休暇・休業を取りやすい環境整備」（55.3%）、「家族や配偶者の家事、子育て、介護・看護への参加・協力」（54.8%）などの順となっている。

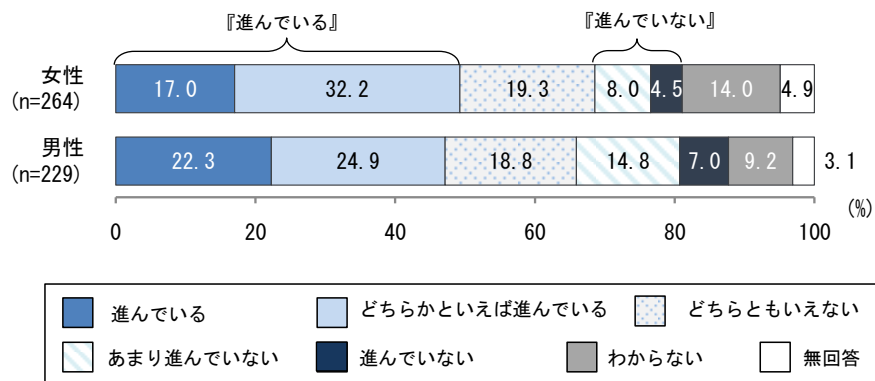
経年比較すると、「介護施設やサービス（デイサービス、配食サービスなど）の充実」との回答は今回調査が平成 26 年度調査を 6.9 ポイント、平成 21 年度調査を 9.5 ポイント、「在宅勤務など時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の普及」との回答は今回調査が平成 26 年度調査を 8.9 ポイント、平成 21 年度調査を 10.0 ポイント上回っている。一方、「子育てのための休暇・休業を取りやすい環境整備」との回答は今回調査が平成 26 年度調査を 5.2 ポイント、平成 21 年度調査を 7.2 ポイント、「結婚・出産・子育てなどによる退職後の再雇用制度の普及」との回答は今回調査が平成 26 年度調査を 6.1 ポイント、平成 21 年度調査を 6.6 ポイント下回っている。

(現在仕事をしている方におたずねします。)

3-4 あなたの職場では女性活躍の取組は進んでいると思いますか。(○印は1つ)



【職場における女性活躍への取組（性別）】



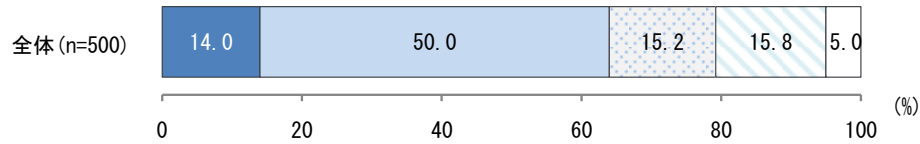
職場における女性活躍への取組について、『進んでいる』（「進んでいる」と「どちらかといえば進んでいる」を合わせた割合）との回答が 48.2%、『進んでいない』（「進んでいない」と「あまり進んでいない」を合わせた割合）との回答が 16.8%となっている。

性別にみると、『進んでいない』との回答は男性（21.8%）が女性（12.5%）を 9.3 ポイント上回っている。

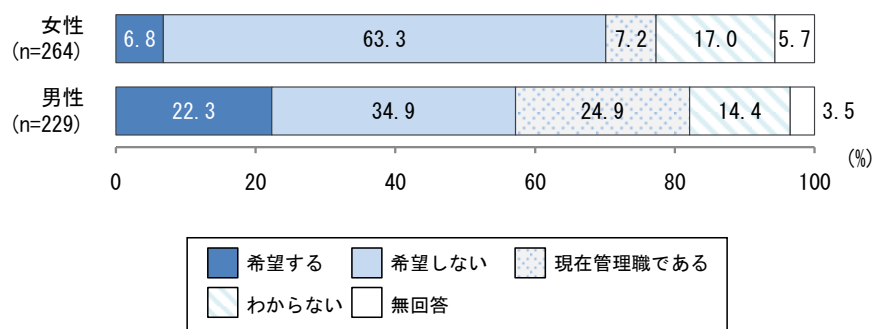
(現在仕事をしている方におたずねします。)

3-5 あなたは管理職(課長相当職以上)への昇格を希望していますか。(○印は1つ)

(1) 管理職への昇格希望



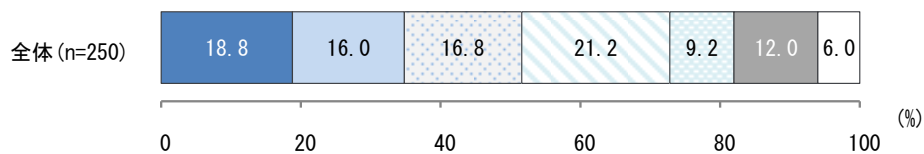
【管理職への昇格希望(性別)】



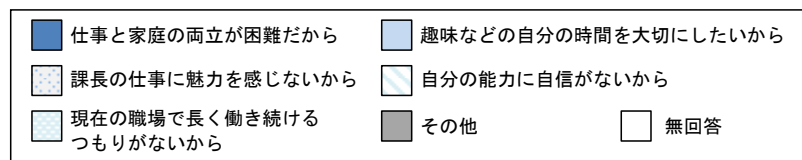
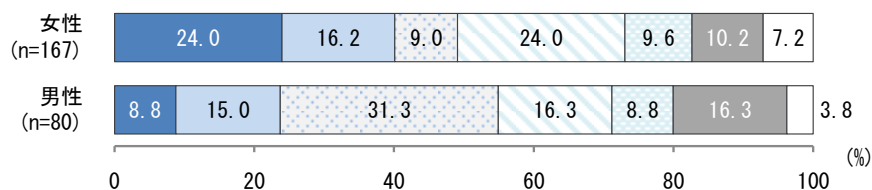
管理職への昇格希望について、「希望する」との回答が14.0%、「希望しない」との回答が50.0%、「現在管理職である」との回答が15.2%となっている。

性別にみると、「希望する」との回答は男性(22.3%)が女性(6.8%)を15.5ポイント上回っており、「希望しない」との回答は女性(63.3%)が男性(34.9%)を28.4ポイント上回っている。「現在管理職である」との回答は男性(24.9%)が女性(7.2%)を17.7ポイント上回っている。

(2) 管理職への昇格を希望しない理由



【管理職への昇格を希望しない理由 (性別)】

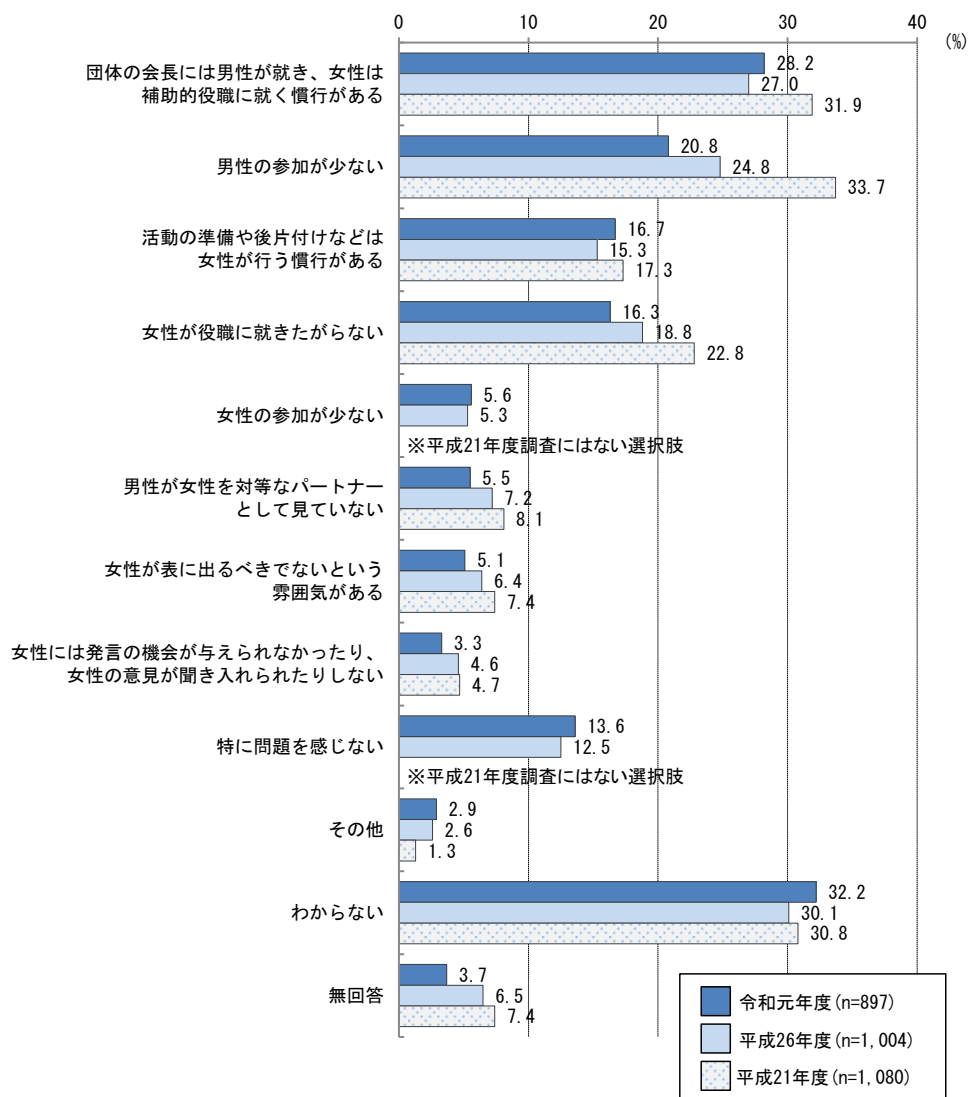


管理職への昇格を希望しない理由について、「自分の能力に自信がないから」との回答が 21.2% と最も高く、次いで「仕事と家庭の両立が困難だから」(18.8%)、「課長の仕事に魅力を感じないから」(16.8%)、「趣味などの自分の時間を大切にしたいから」(16.0%) などの順となっている。

性別にみると、「仕事と家庭の両立が困難だから」との回答は女性 (24.0%) が男性 (8.8%) を 15.2 ポイント、「自分の能力に自信がないから」との回答は女性 (24.0%) が男性 (16.3%) を 7.7 ポイント上回っている。一方、「課長の仕事に魅力を感じないから」との回答は男性 (31.3%) が女性 (9.0%) を 22.3 ポイント上回っている。

4 地域での男女共同参画について

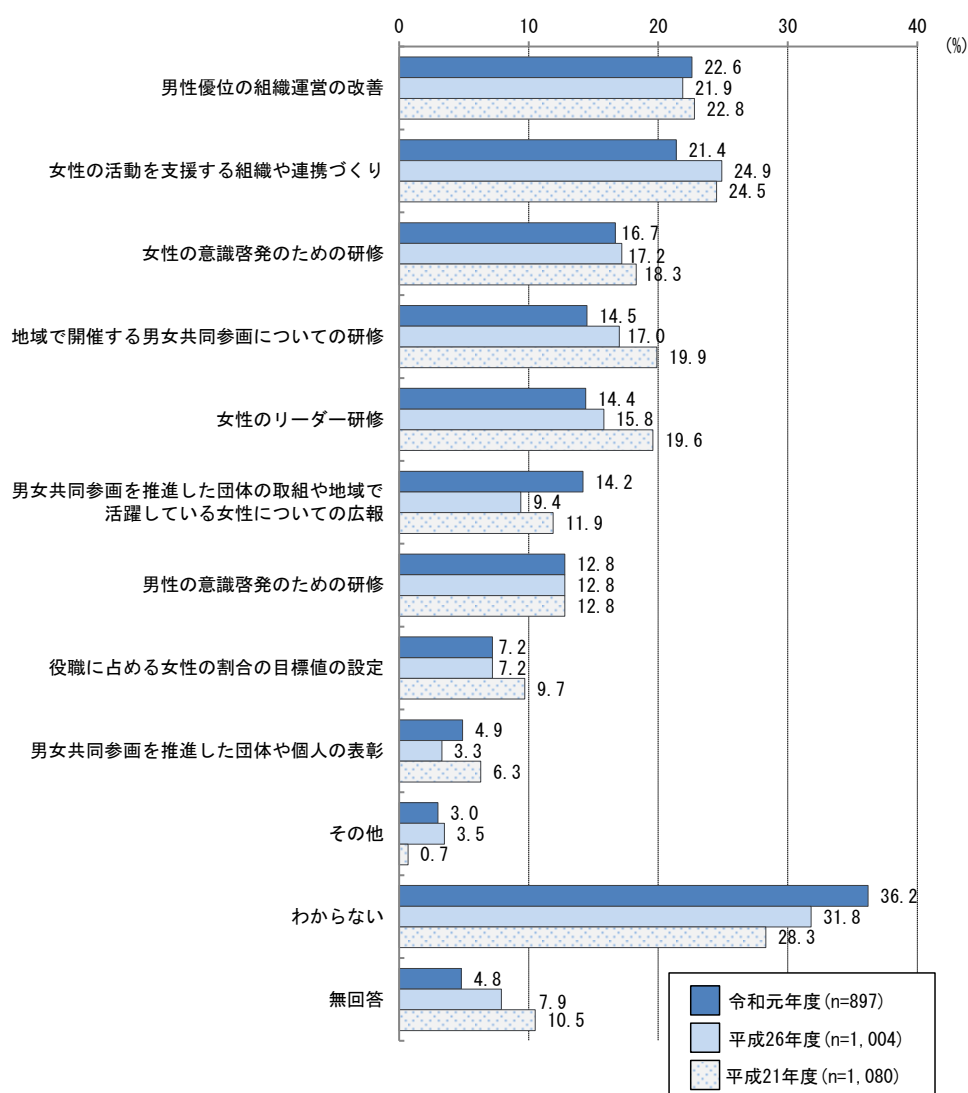
4-1 町内会、ボランティアなどの地域活動での男女共同参画についてどのように思いますか。 (〇印はいくつでも)



地域活動での男女共同参画について、「団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く慣行がある」との回答が28.2%と最も高く、次いで「男性の参加が少ない」(20.8%)、「活動の準備や後片付けなどは女性が行う慣行がある」(16.7%)、「女性が役職に就きたがらない」(16.3%)などの順となっている。

経年比較すると、「男性の参加が少ない」との回答は今回調査が平成26年度調査を4.0ポイント、平成21年度調査を12.9ポイント、「女性が役職に就きたがらない」との回答は今回調査が平成26年度調査を2.5ポイント、平成21年度調査を6.5ポイント下回っており、それぞれ低下傾向にある。

4-2 地域活動において、町内会長や役員など方針を決定する立場の女性が少ない現状があります。このような立場の女性を増やすために具体的な施策としてどのようなことが効果的だと思いますか。(〇印はいくつでも)



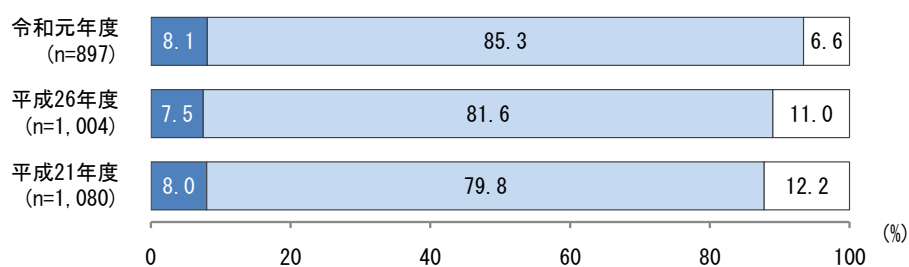
地域活動における方針決定の場に女性が参画するために効果的なことについて、「男性優位の組織運営の改善」との回答が22.6%と最も高く、次いで「女性の活動を支援する組織や連携づくり」(21.4%)、「女性の意識啓発のための研修」(16.7%)などの順となっている。

経年比較すると、「地域で開催する男女共同参画についての研修」との回答は今回調査が平成26年度調査を2.5ポイント、平成21年度調査を5.4ポイント、「女性のリーダー研修」との回答は今回調査が平成26年度調査を1.4ポイント、平成21年度調査を5.2ポイント下回っており、それぞれ低下傾向にある。

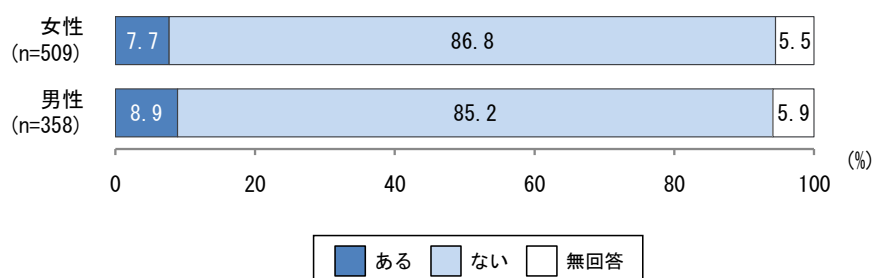
5 男女間における暴力の防止・被害者支援について

5-1 あなたはこの5年間で配偶者や交際相手などに対して次のような行為をしたことがありますか。(○印は1つ)

(1) 配偶者、交際相手などに対する暴力経験の有無



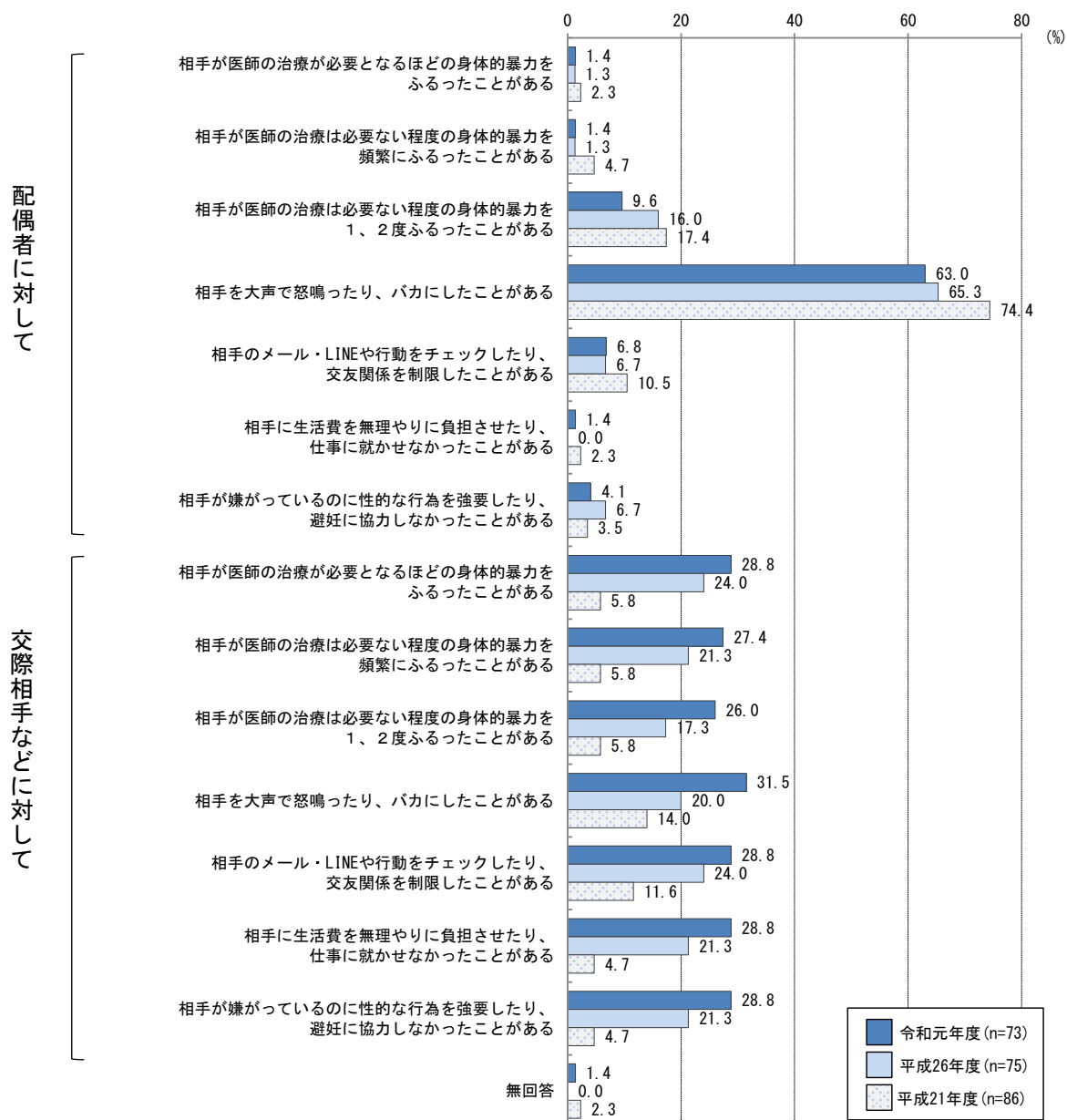
【配偶者、交際相手などに対する暴力経験の有無（性別）】



配偶者、交際相手などに対する暴力経験の有無について、「ある」との回答が8.1%、「ない」との回答が85.3%となっている。

経年比較すると、「ない」との回答は今回調査が平成21年度調査を5.5ポイント上回っている。性別にみると、大きな差はみられない。

(2) 配偶者、交際相手などに対して行ったことのある行為



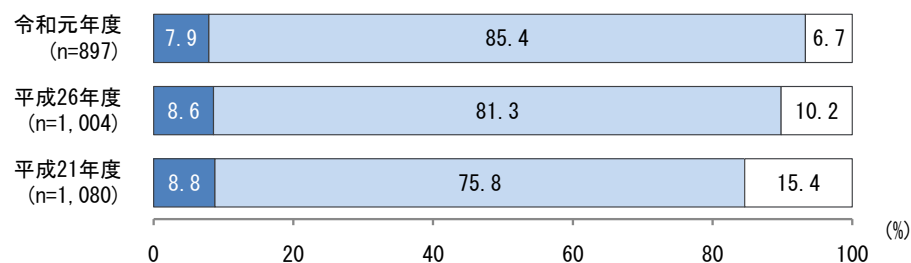
配偶者、交際相手などに対して行ったことのある行為について、配偶者に対する行為では、「相手を大声で怒鳴ったり、バカにしたことがある」との回答が63.0%と突出して高く、次いで「相手が医師の治療は必要ない程度の身体的暴力を1、2度ふるったことがある」(9.6%)、「相手のメール・LINEや行動をチェックしたり、交友関係を制限したことがある」(6.8%)などの順となっている。

交際相手などに対する行為では、「相手を大声で怒鳴ったり、バカにしたことがある」との回答が31.5%と最も高くなっている。

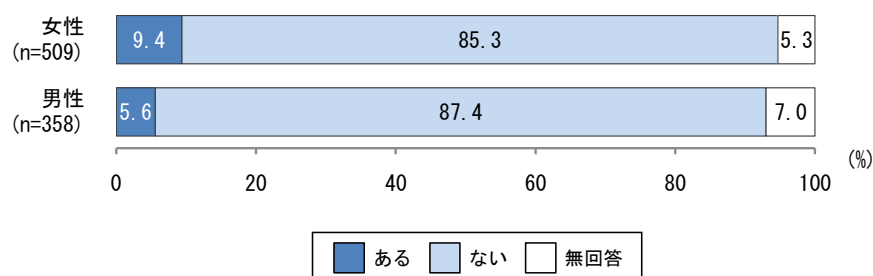
経年比較すると、配偶者に対する行為では、「相手が医師の治療は必要ない程度の身体的暴力を1、2度ふるったことがある」、「相手を大声で怒鳴ったり、バカにしたことがある」との回答で低下傾向にある。交際相手などに対する行為では、すべての選択肢で上昇傾向にあり、特に「相手を大声で怒鳴ったり、バカにしたことがある」との回答は今回調査が平成26年度調査を11.5ポイント、平成21年度調査を17.5ポイント上回っている。

5-2 あなたはこの5年間で配偶者や交際相手などからの暴力を経験したことはありますか。
(○印は1つ)

(1) 配偶者、交際相手などからの暴力経験の有無



【配偶者、交際相手などからの暴力経験の有無 (性別)】

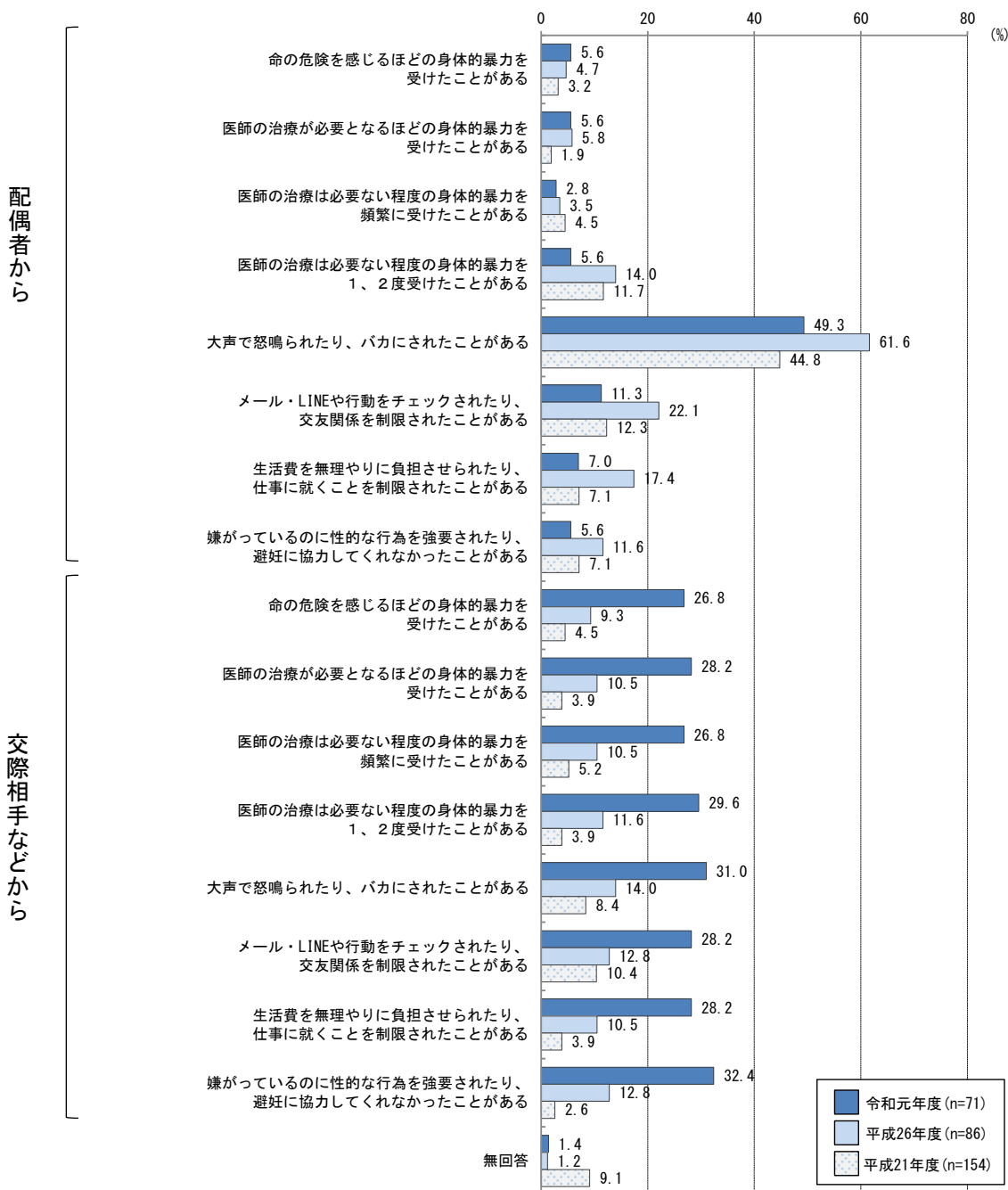


配偶者、交際相手などからの暴力経験の有無について、「ある」との回答が7.9%、「ない」との回答が85.4%となっている。

経年比較すると、「ない」との回答は今回調査が平成26年度調査を4.1ポイント、平成21年度調査を9.6ポイント上回っており、やや上昇傾向にある。

性別にみると、「ある」との回答は女性が9.4%と男性をやや上回っている。

(2) 配偶者、交際相手などから受けた行為



配偶者、交際相手などから受けた行為について、配偶者からでは、49.3%が「大声で怒鳴られたり、バカにされたことがある」と回答しており、最も高くなっている。

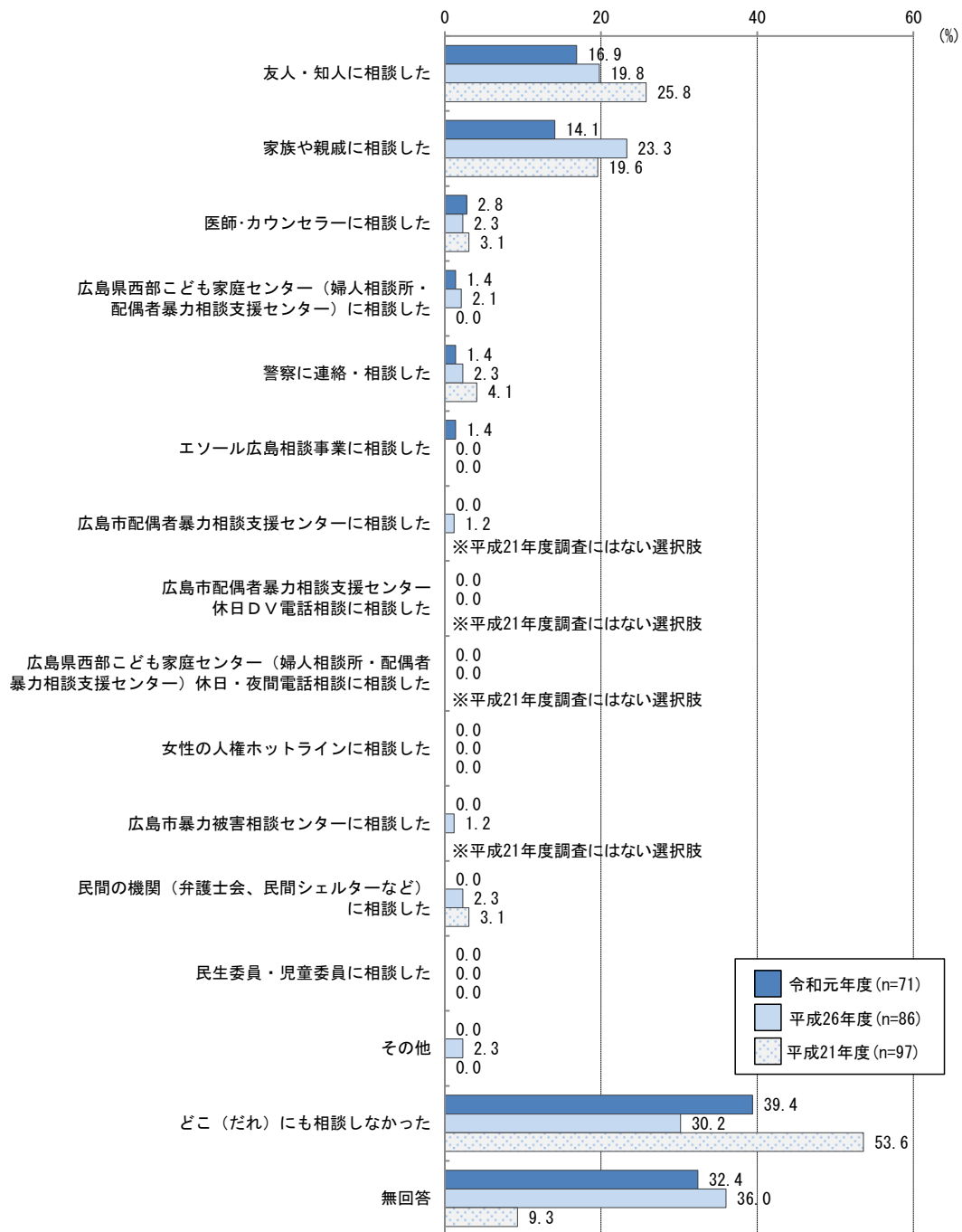
交際相手などからでは、すべての選択肢において3割前後となっている。

経年比較すると、配偶者からでは、「大声で怒鳴られたり、バカにされたことがある」との回答は今回調査が平成26年度調査を12.3ポイント下回っている。

交際相手などからでは、いずれの選択肢においても今回調査が平成26年度調査、平成21年度調査を15.0ポイント以上上回っており、いずれも上昇傾向にある。

(5-2で「暴力を経験したことがある」と回答された方におたずねします。)

5-3 あなたはこれまでに、配偶者から受けた暴力について、誰かに打ち明けたり、相談したことがありますか。(〇印はいくつでも)



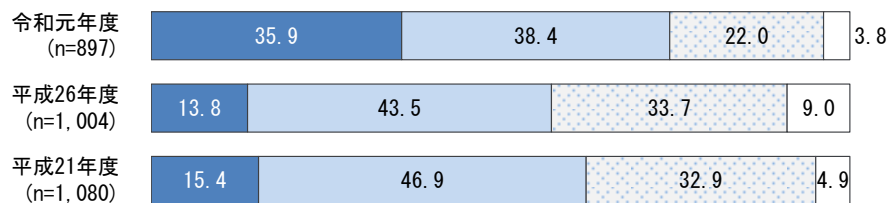
配偶者から受けた暴力に対する相談先について、「どこ（だれ）にも相談しなかった」との回答が39.4%と最も高くなっている。相談した人の中では「友人・知人に相談した」との回答が16.9%と高く、次いで「家族や親戚に相談した」（14.1%）などの順となっている。

経年比較すると、「家族や親戚に相談した」との回答は今回調査が平成26年度調査を9.2ポイント下回っている。また、「どこ（だれ）にも相談しなかった」との回答は今回調査が平成26年度調査を9.2ポイント上回っている。

6 男女共同参画社会の形成について

6-1 あなたは次にあげる言葉についてご存知ですか。(○印は1つずつ)

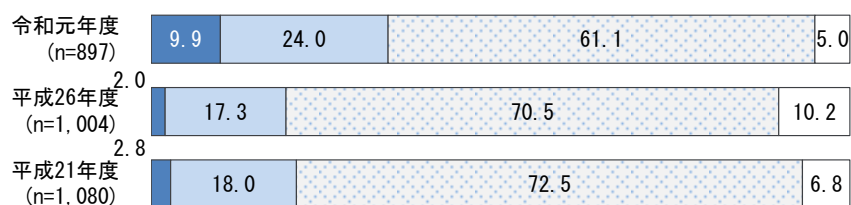
① 男女共同参画社会



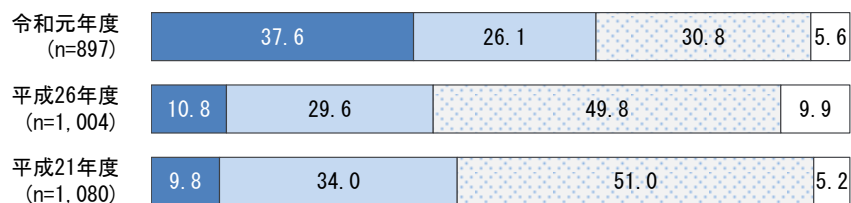
② 働き方改革



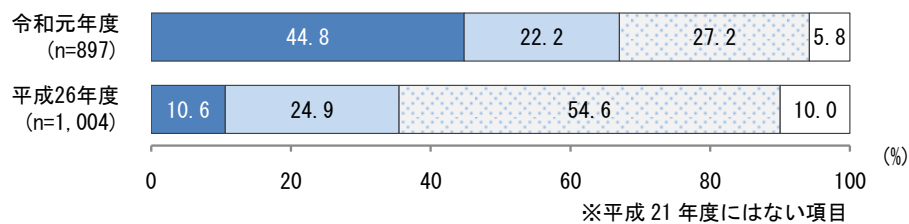
③ ポジティブ・アクション（積極的改善措置）



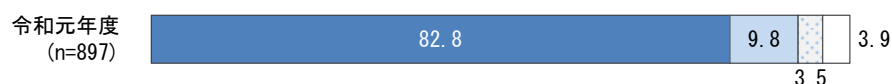
④ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）



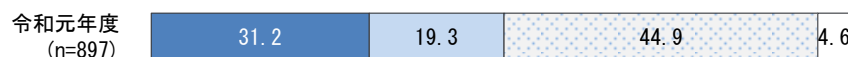
⑤ ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）



⑥ DV（ドメスティック・バイオレンス、配偶者などからの暴力）



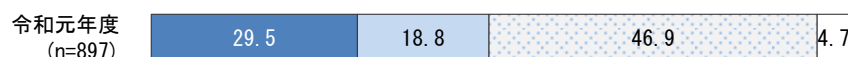
⑦ デートDV



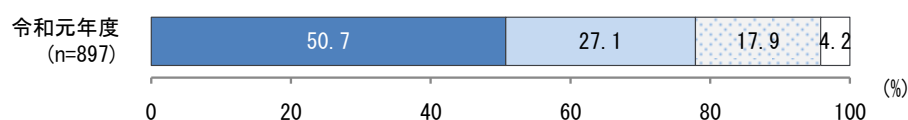
⑧ LGBT（性的マイノリティ）



⑨ JKビジネス



⑩ AV（アダルトビデオ）出演強要



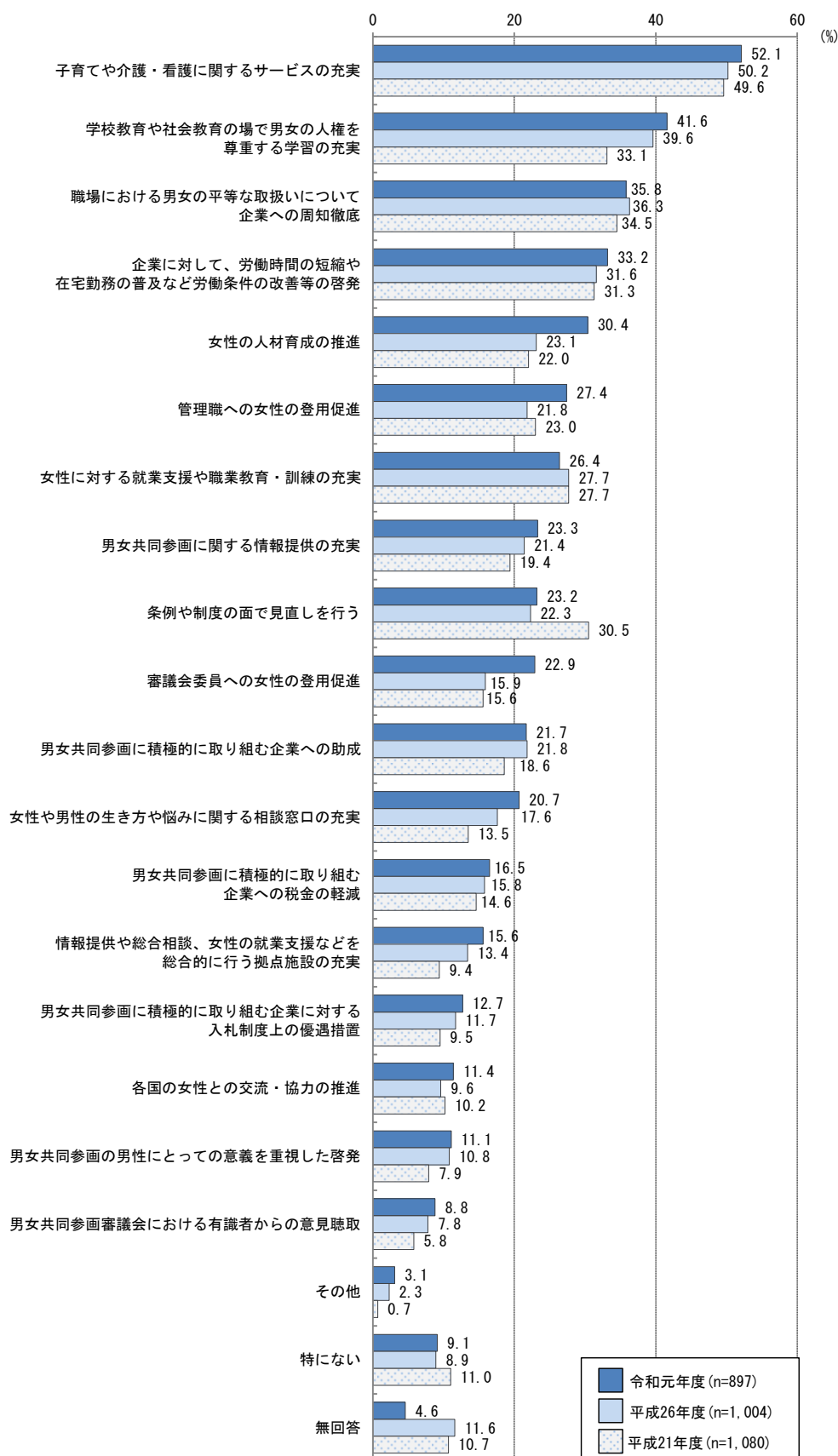
※ ⑥～⑩は平成 21 年度・26 年度にはない項目



男女共同参画に関する言葉の認知度について、「言葉と内容を知っている」との回答は「働き方改革」で 60.1%、「DV（ドメスティック・バイオレンス、配偶者などからの暴力）」で 82.8% と高くなっている。一方、「知らない」との回答は「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」で 6 割超、「デートDV」、「JKビジネス」で 4 割台半ばと高くなっている。

経年比較すると、「言葉と内容を知っている」との回答は「男女共同参画社会」で今回調査が平成 26 年度調査を 22.1 ポイント、平成 21 年度調査を 20.5 ポイント、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」で今回調査が平成 26 年度調査を 26.8 ポイント、平成 21 年度調査を 27.8 ポイント、「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」で今回調査が平成 26 年度調査を 34.2 ポイントと大きく上回っており、いずれの項目においても上昇傾向にある。

6-2 男女の人権が尊重され、男女が対等なパートナーとして責任を分かち合い、個性や能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」を実現していくために、あなたは広島市に対してどのようなことを望みますか。(〇印はいくつでも)



男女共同参画社会実現のために広島市に期待することについて、「子育てや介護・看護に関するサービスの充実」との回答が 52.1%と最も高く、次いで「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実」(41.6%)、「職場における男女の平等な取扱いについて企業への周知徹底」(35.8%)などの順となっている。

経年比較すると、「女性の人材育成の推進」との回答は今回調査が平成 26 年度調査を 7.3 ポイント、平成 21 年度調査を 8.4 ポイント、「審議会委員への女性の登用促進」との回答は今回調査が平成 26 年度調査を 7.0 ポイント、平成 21 年度調査を 7.3 ポイント上回っており、いずれも上昇傾向にある。

名 称 広島市男女共同参画に関するアンケート調査報告書（概要版）
発 行 広島市市民局人権啓発部男女共同参画課
所 在 地 〒730 - 8586 広島市中区国泰寺町一丁目 6-34
電話 082-504-2108
FAX 082-504-2609
E-mail: danjo@city.hiroshima.lg.jp
発行年月 令和2年3月
登録番号 広 G7-2019-455



広島市男女共同参画推進シンボルマーク